

令和3年度・令和4年度調査研究事業

新しい生活様式に対応した生涯学習スタイルの確立

～茨城県内の社会教育施設における

ICTの整備・活用状況について～

茨城県水戸生涯学習センター

はじめに

私たちの暮らしに多大な影響を及ぼし、人々の暮らしを一変させた新型コロナウイルス感染症の我が国初の感染が確認されたのは2020年1月でした。この間、学校教育においては2020年3月2日より全国一斉休校の措置が講じられ、第2波以降の感染の拡大に備え、授業のオンライン対応等2019年12月に発表した「GIGAスクール構想」を加速させ、教育現場におけるICT化の環境整備が大幅に進みました。

生涯学習・社会教育の分野でも、「第10期中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理」（令和2年9月）において副題に「多様な主体の協働とICTの活用で、つながる生涯学習・社会教育」と示し、現状の利点として「Society5.0の実現により、（中略）インターネット上で多種多様なコンテンツへのアクセスが容易となることにより一人ひとりのニーズに応じた学びが可能となる（後略）。」「新型コロナウイルス感染症の感染拡大による～遠隔地や自宅からも参加しやすい、移動の時間が節約できるなど、オンラインならではの利点も認識された。」と挙げられています。そして、新しい生涯学習・社会教育の広がりや充実として、「新しい技術の学びの可能性を広げ、（中略）様々な学びの在り方が可能になる。」と、新しい時代の学びの姿としての方向性を示されました。

その後の「第11期中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理」（令和4年8月）の現状と課題の中で、インターネットやソーシャルネットワーキングサービスの利用拡大に伴い情報発信の活発化がある現状を述べた上で、「一人一人が機器の使い方のみならず、メールやインターネットを安全に活用する際の正しい知識と対策やスキルを身に付けることが重要である。」と、ICT環境の日常化が当然のことになっている社会の有り様を述べています。その上で「今後の生涯学習・社会教育の振興方針」の中で「デジタル社会の利点を最大限活用できるよう、社会教育施設へのPC等の機器導入、Wi-Fi環境整備等のデジタル基盤の強化によって、社会参加に制約のある人を含めた利用者の学習機会の充実を図ることが重要である。」とあるように、社会教育施設における生涯学習・社会教育のICT化がこれからの「不可欠」な時代であると考えております。

このような時代の渦の中、「新しい生活様式に対応した新たな生涯学習スタイルの確立～茨城県内の社会教育施設におけるICTの整備・活用状況について～」というテーマのもと、令和3年度から令和4年度にかけての2年間、調査をし報告書としてまとめました。本報告書がこれからの県内の市町村をはじめ生涯学習・社会教育のICT化推進の一助となれば幸甚に存じます。

結びに、当事業の実施にあたり御指導を賜りました松橋義樹委員長（常磐大学人間科学部教育学科助教）をはじめとした委員の方々、並びに質問紙調査やヒアリング調査の実施に御協力を賜りました関係機関の皆様に心より御礼申し上げます。

令和5年3月

茨城県水戸生涯学習センター 所長 関 勤

<目次>

第1章 調査研究の概要

1	調査研究のテーマ-----	1
2	調査研究テーマ設定の理由・背景-----	1
3	調査の目的-----	1
4	調査の方法-----	1
5	調査研究委員会の構成-----	2

第2章 アンケート調査

1	調査方法-----	3
2	調査結果-----	4

第3章 ヒアリングの結果

1	那珂市中央公民館-----	14
2	笠間市立笠間公民館-----	18
3	日立市金沢交流センター-----	21
4	牛久市中央生涯学習センター-----	24
5	守谷市民活動支援センター-----	27
6	銚田市立大洋公民館-----	31
7	茨城県 水戸生涯学習センター-----	34
8	茨城県 県北生涯学習センター-----	38
9	レイクエコー 茨城県 鹿行生涯学習センター-----	42
10	茨城県 県南生涯学習センター-----	45
11	茨城県 県西生涯学習センター-----	48

第4章 調査研究のまとめ

1	アンケート調査について-----	50
2	ヒアリング調査について-----	51
3	総括-----	54

<資料>

1	調査用紙-----	57
2	ヒアリングに際しての事前のアンケート質問内容-----	59
3	ヒアリング調査項目-----	63

第1章 調査研究の概要

1 調査研究のテーマ

新しい生活様式に対応した新たな生涯学習スタイルの確立
～茨城県内の社会教育施設における ICT の整備・活用状況について～

2 調査研究テーマ設定の理由・背景

令和元年12月頃より、世界各国で新型コロナウイルス感染症拡大が始まり、日本国内も蔓延し始めたため、生涯学習施設等で行う従来の集客型の講座等は延期や中止となることが多くなった。

「第10期中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理 多様な主体の協働とICTの活用で、つながる生涯学習・社会教育～命を守り、誰一人として取り残さない社会の実現へ～」の中で、「今期中において、新型コロナウイルス感染症に関する対応が発生し、学校教育のみならず社会教育にも大きな影響を与えている。それぞれの場において学びを止めないことの重要性が共有されたとともに、ICTなどの新しい技術を活用した学びなど、学びの新たな可能性も示されたところである。一方、ICT機器を利用できる者と利用できない者の間に生じる格差（デジタル・ディバイド）の解消も課題となっている。」とあることから、社会教育施設等でも、現在では、学びを止めないようにするために、可能な限り自宅でも受講可能なオンライン講座へと変更し、講座を開催するようになってきている。

また今後も有事のみならず、様々な生涯学習事業のオンライン化が必須であると考えられることから、今回の調査研究のテーマ設定となった。

3 調査の目的

茨城県内社会教育施設における ICT の整備・活用状況を把握するとともに、その在り方について明らかにする。

4 調査の方法

茨城県内社会教育施設における ICT の整備・活用状況等についてアンケート調査（無作為抽出方）で全体的な傾向を把握し分析を行った後、県各生涯学習センター管内に置ける先駆的・先進的事例についてのヒアリング調査を実施する。

5 調査研究委員会の構成

委員長	松橋 義樹	常磐大学人間科学部教育学科助教
副委員長	鈴木 宏治	有限会社アクティブコンピュータ代表取締役
委員	塩畑 貴志	NPO 法人教員支援ネットワーク T-KNIT 代表
	桐原 武文	国立大学法人茨城大学社会連携センター講師
	小野瀬 静香	茨城県県北生涯学習センター事業グループリーダー
	川島 敬一	茨城県鹿行生涯学習センター企画振興課長
	橋本 由美子	茨城県県南生涯学習センター社会教育推進員
	下島 繁文	茨城県県西生涯学習センター主任
事務局	関 勤	茨城県水戸生涯学習センター所長
	熊谷 智仁	茨城県水戸生涯学習センター次長兼企画振興課長
	江幡 覚	茨城県水戸生涯学習センター主任社会教育主事
	渡邊 和重	茨城県水戸生涯学習センター主任社会教育主事
	白井 秀樹	茨城県水戸生涯学習センター社会教育主事
	大口 武文	茨城県水戸生涯学習センター社会教育主事
	因泥 辰也	茨城県水戸生涯学習センター社会教育主事（令和3年度）

第2章 アンケート調査

1 調査方法

質問紙調査を実施した

①調査設計

調査対象 令和3年度茨城県生涯学習推進体制等整備状況調査における 330 m²以上の公民館及び公民館類似施設（生涯学習センター、市民センター等）269施設

標本数 60施設

標本属性 公民館 35館、公民館類似施設 25施設

抽出方法 無作為抽出

なお、無作為抽出するに当たって以下のサイトを利用した。

URL=https://keisan.casio.jp/exec/system/1425449868

（出典：CASIO「keisan サービス」「整数の一樣乱数の生成」より）

②調査票の配布

茨城県水戸生涯学習センターから、各市町村の教育委員会及び施設を管轄している部局・担当課へ、調査対象となった施設とともに電子メールで依頼、配布した。

③調査期間

令和4年3月8日～令和4年3月18日

④調査票の回収

ウェブ上でGoogle form入力、またはExcelファイルを茨城県水戸生涯学習センターに電子メールで提出

⑤調査の回収状況

調査の回収状況は以下のとおりであった。

調査対象別	対象数	回収数	回収率
公民館	35	20	57.1%
公民館類似施設	25	17	68.0%
合計	60	37	61.7%

※アンケート回答は実数ではなく百分率の数字で表しているもの（円グラフ）と、実数で表しているもの（棒グラフ）がある。

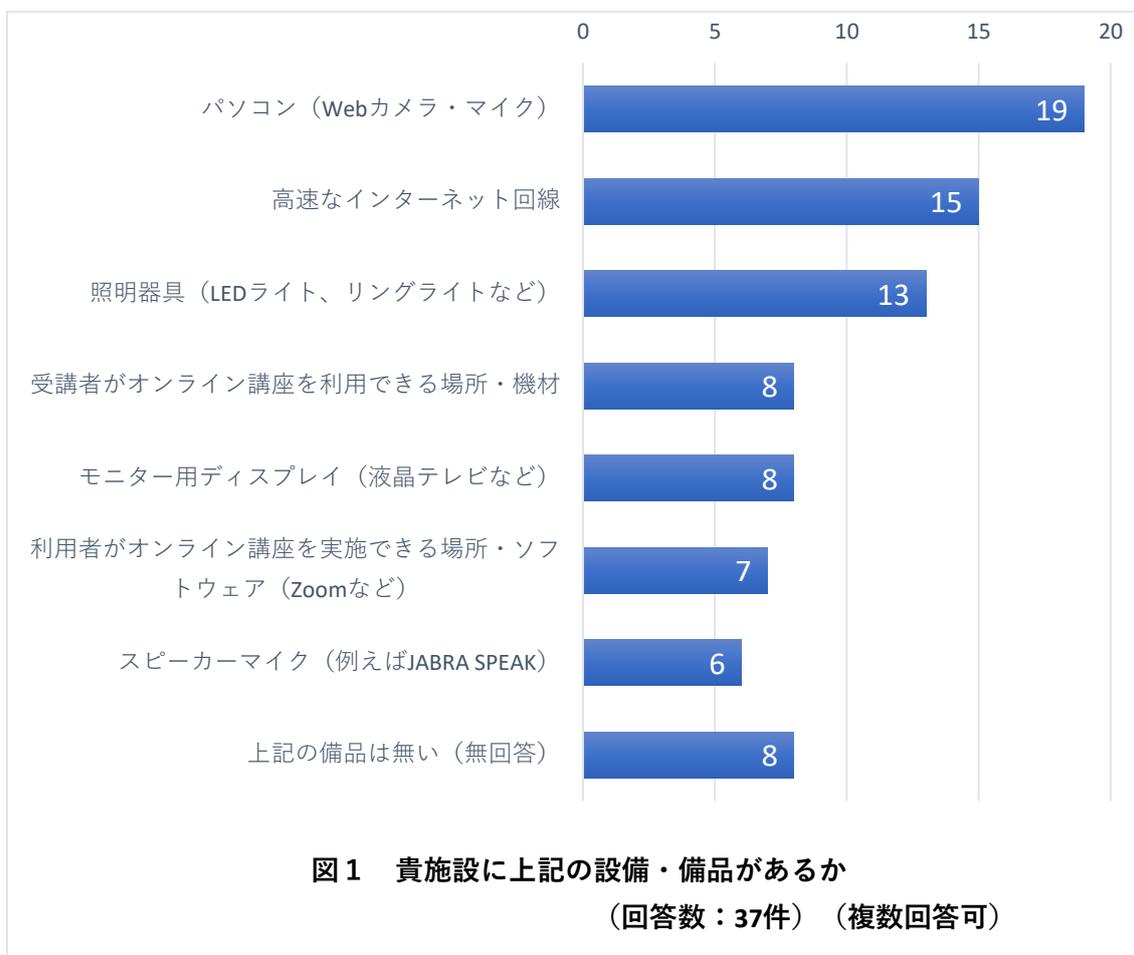
※回答項目ごとに小数点以下を四捨五入しており、複数回答もあるために合計値は必ずしも100%とはならない。（以下全てのアンケートにおいて同じとする）

2 調査結果

(1) アンケートについて

a 設備・備品について

設備・備品について、37件の回答があり、図1に示した。

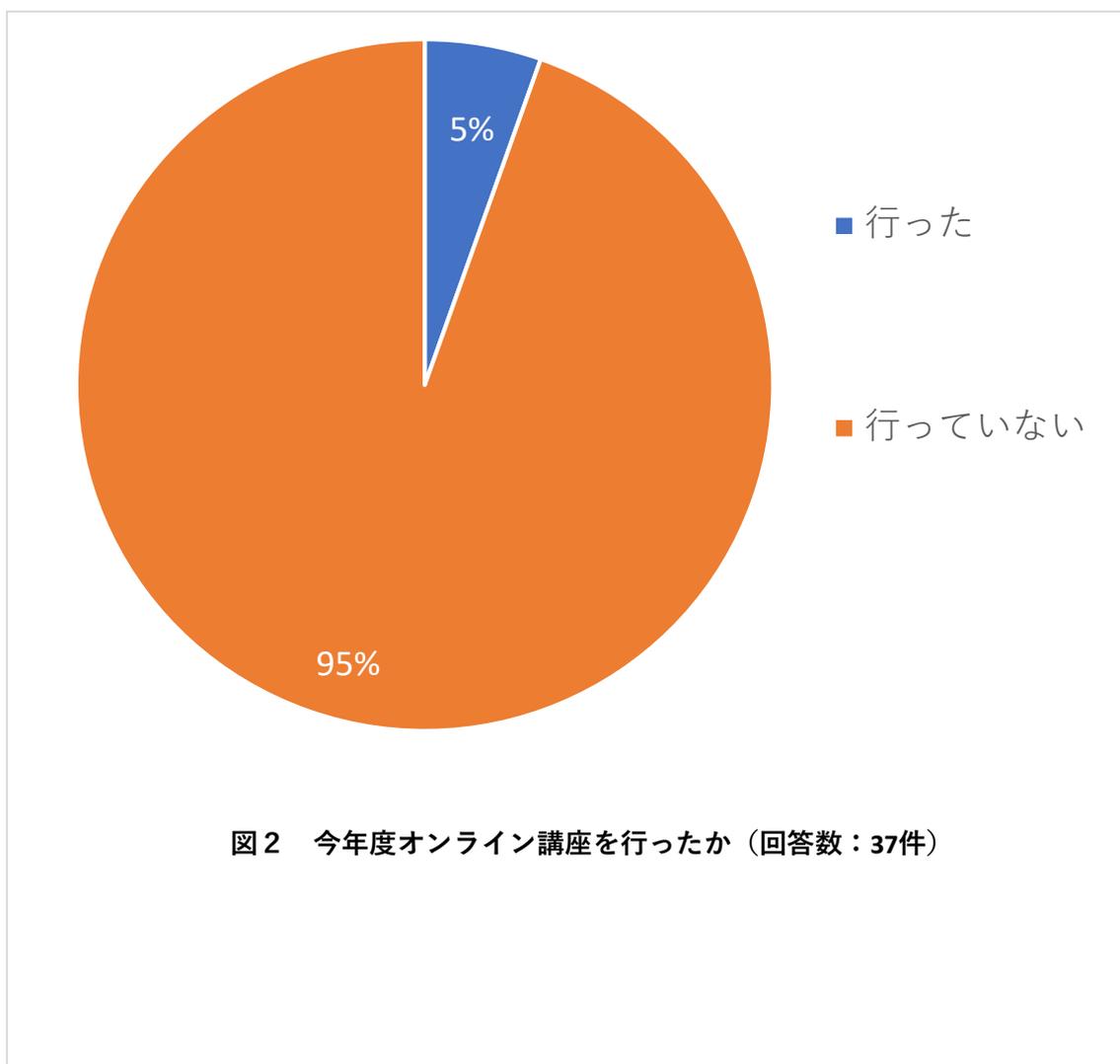


回答が多かった設備・備品については、「パソコン (Webカメラ・マイク)」19施設、「高速なインターネット回線」15施設、「照明器具 (LEDライト、リングライトなど)」13施設であった。オンライン講座等を開催するにあたって最も重要な設備であるパソコンが約5割の施設しか整備されていない状況であった。また、リアルタイムのオンライン講座等を開催するにあたり必須である「高速なインターネット回線」が約4割という結果であった。

この結果により、オンライン講座等を行うにあたって、設備が十分に整っていない施設が多いことがわかる。

b オンライン講座の実施状況

2021年度にオンライン講座を行ったか、について37件の回答があり、その割合を図2に示した。



「行った」5%（2施設）、「行っていない」95%（35施設）
以上の結果から、オンライン講座を行っている施設が少ないことがわかる。

(2) 現在オンライン講座を行っている施設について

a 事業・講座数について

貴施設では、2021年度中にオンライン講座をいくつ行ったか（記述）について、2施設から回答があり、その回答は以下のとおりである。

- ・防災講演会 1回
- ・講座 12回、鑑賞講演（音楽等） 5回

b 代表的な講座について

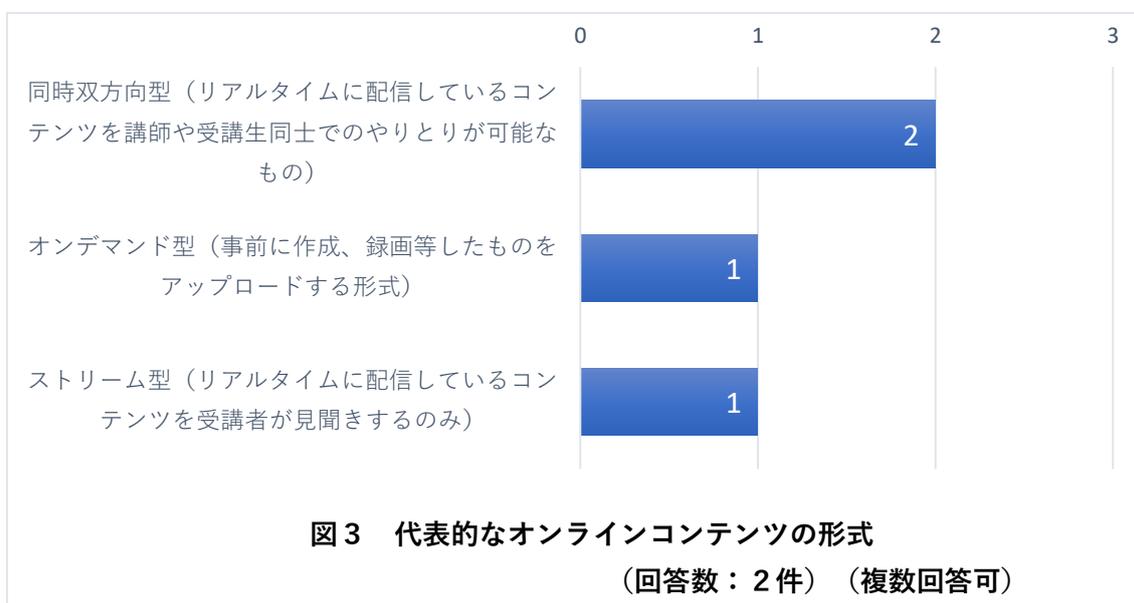
貴施設で行ったオンライン講座のうち、代表的な講座については以下の回答であった。

①ジャンル

- ・防災
- ・音楽、健康、朗読、演劇、社会一般、学習支援

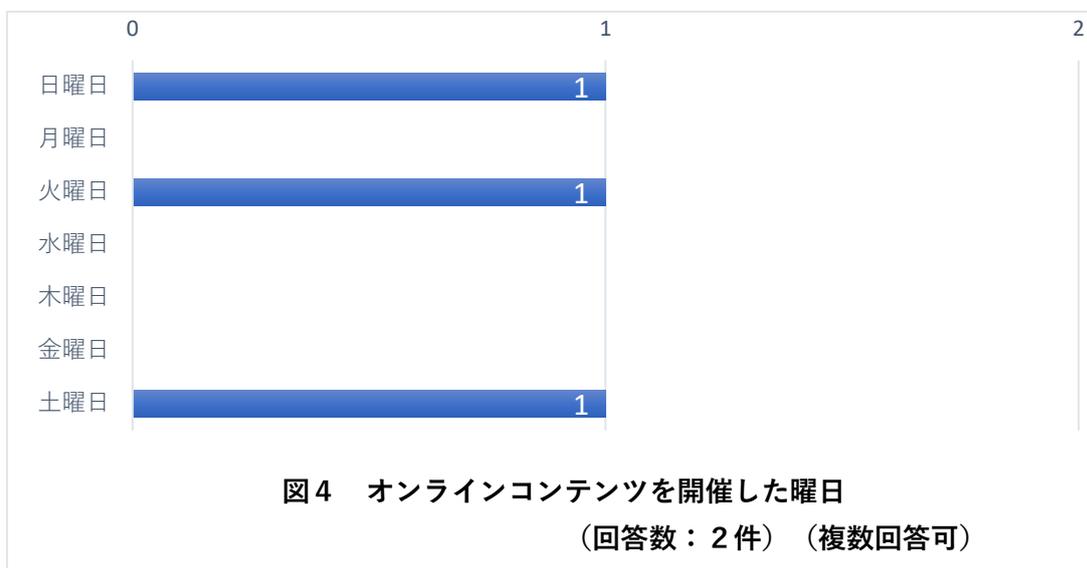
②形式（複数回答可）

代表的なオンラインコンテンツの形式については、以下の図3のとおりであった。



③開催曜日

オンラインコンテンツを開催した曜日については、以下の図4のとおりであった。



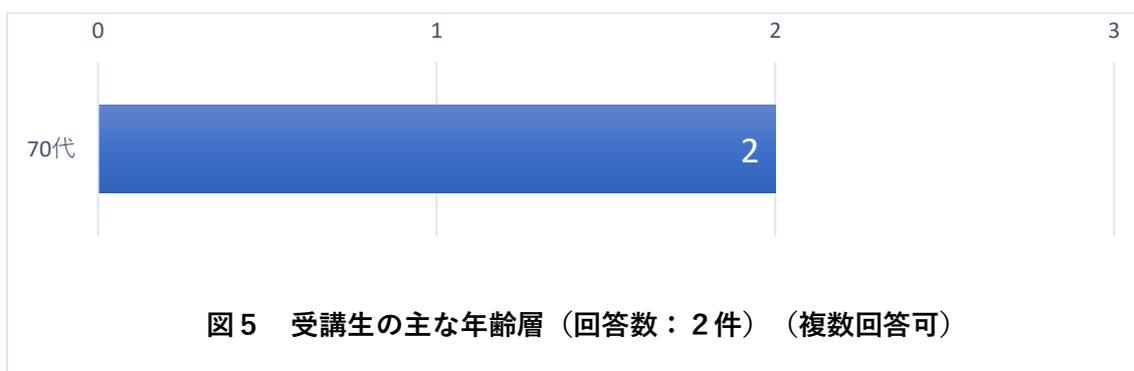
④時間 (回答数：2件) (複数回答可)

代表的なオンラインコンテンツの実施時間については、以下のとおりであった。

- ・ 10:00～12:00
- ・ 14:00～16:00
- ・ 19:00～21:00

⑤受講生の主な年齢層

オンライン講座を受講した主な年齢層は、以下の図5のとおりであった。



以上のことから、オンライン講座を2021年度に行っている施設は、2施設のみと少ないが、その中で特に積極的に取り組んでいる施設が1施設見られた。また、その施設に関しては、オンライン講座のジャンルも、音楽、健康、朗読、演劇、社会一般、学習支援と多岐に亘っていた。

なお、もう一方の施設に関しては、防災講演会を行っていた。これは、参加者を二つの会場に設定して、講演会を直接聞く参加者と別室でのリモートの2つに分けて行っていた。

c 苦勞・失敗した点について

オンライン講座で、苦勞・失敗した点を自由記述形式で伺ったところ、以下のような回答が得られた。

- ・知識不足で業者と市視聴覚センターに機器操作等を依頼した
- ・機材設営や受け手（受講者）の接続確認

以上のことから、オンライン講座に慣れるまでは、知識のある施設等と連携すると良いことが分かった。また、受講者もオンライン講座の接続等の知識がある程度は必要になってくることが分かった。

d オンライン講座を行って良かった点について

オンライン講座を行って良かった点を自由記述形式で伺ったところ、以下のような回答が得られた。

- ・コロナ感染対策で対応できた
- ・コロナ禍においても、事業を中止することなく社会教育の場を提供することができた点

以上のことから、有事の際にも社会教育を提供できることが、ICTの活用のメリットの1つであると今回のアンケートから分かった。

e オンライン講座を始める施設へのアドバイスについて

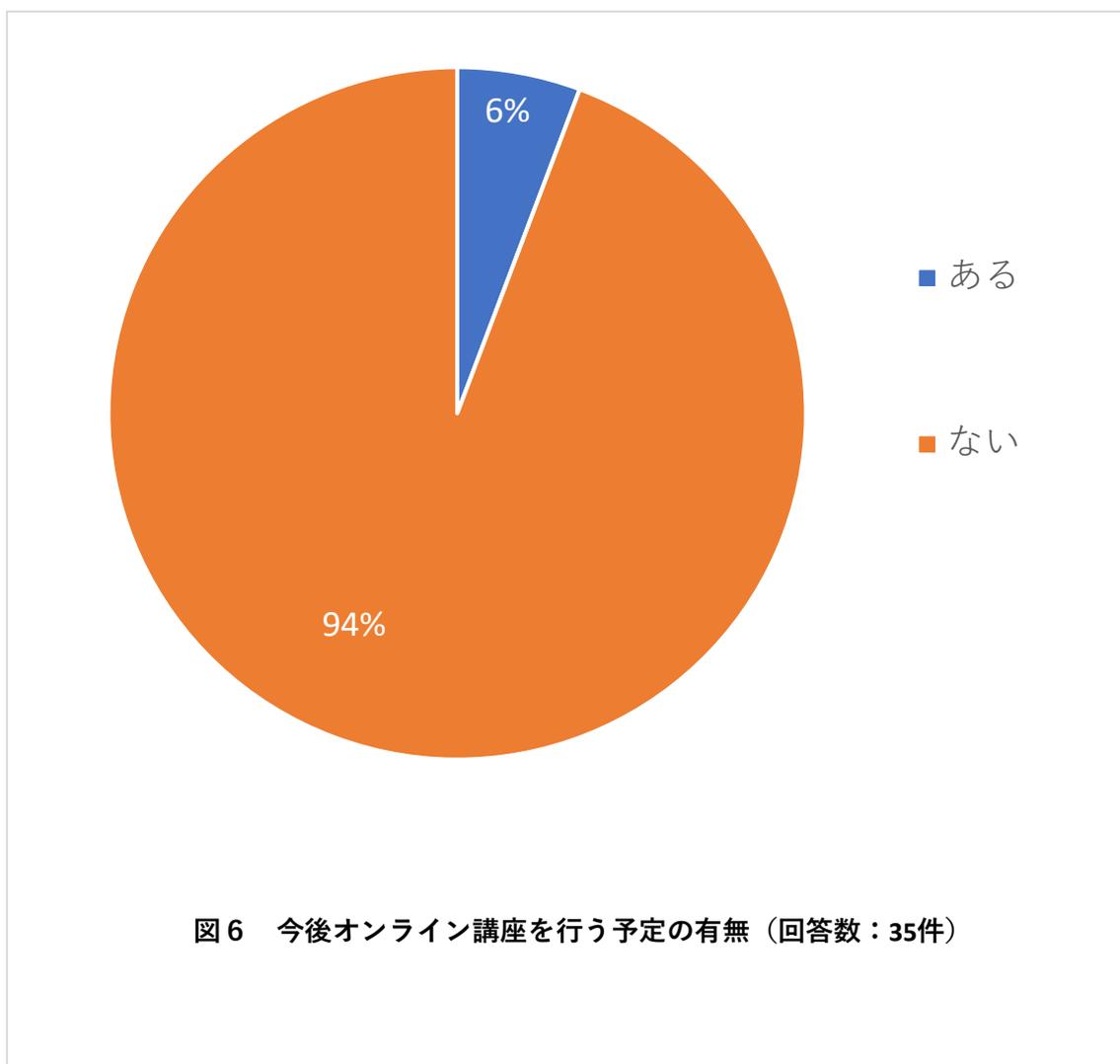
これからオンライン講座を始める施設へのアドバイスを自由記述形式で伺ったところ、以下のような回答が得られた。

- ・機器を十分そろえる
- ・高齢者向けに、ZoomやYouTubeの使用方法に関する講座を実施したほうが良い

以上のことから、設備や機器はもちろんのこと、受講者にもオンライン講座の受け方として、Zoom等の使い方を学んでもらう必要があることが分かった。

(3) 現在オンライン講座を行っていない施設について

オンライン講座を現在行っていないと答えた 35 施設に、今後オンライン講座を行う予定については、図 6 のとおりである。



6%（2施設）が、今後オンライン講座を始める予定があり、94%（33施設）については、今後もオンライン講座を行う予定がないという結果になった。理由については、以下で述べる。

(4) 今後オンライン講座を行う予定の施設について

「(3) 現在オンラインコンテンツを利用した生涯学習等を行っていない施設について」、「今後行う予定である」と答えた2施設について

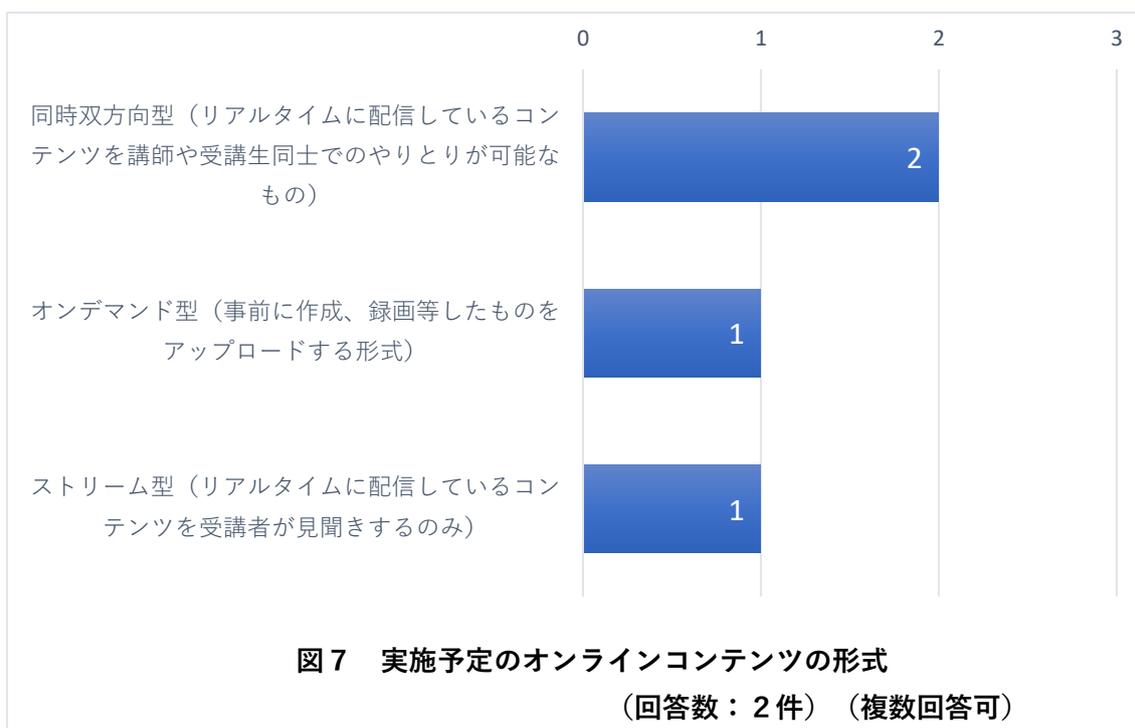
①ジャンルについて

ジャンルについては以下のとおりである。(回答数：2件) (自由記述形式)

- ・料理：生涯学習講座 オンラインで楽しく美味しく！初めてのパン作り (Zoom を使用)
- ・子どもの応急手当、子育て講座、歴史講座

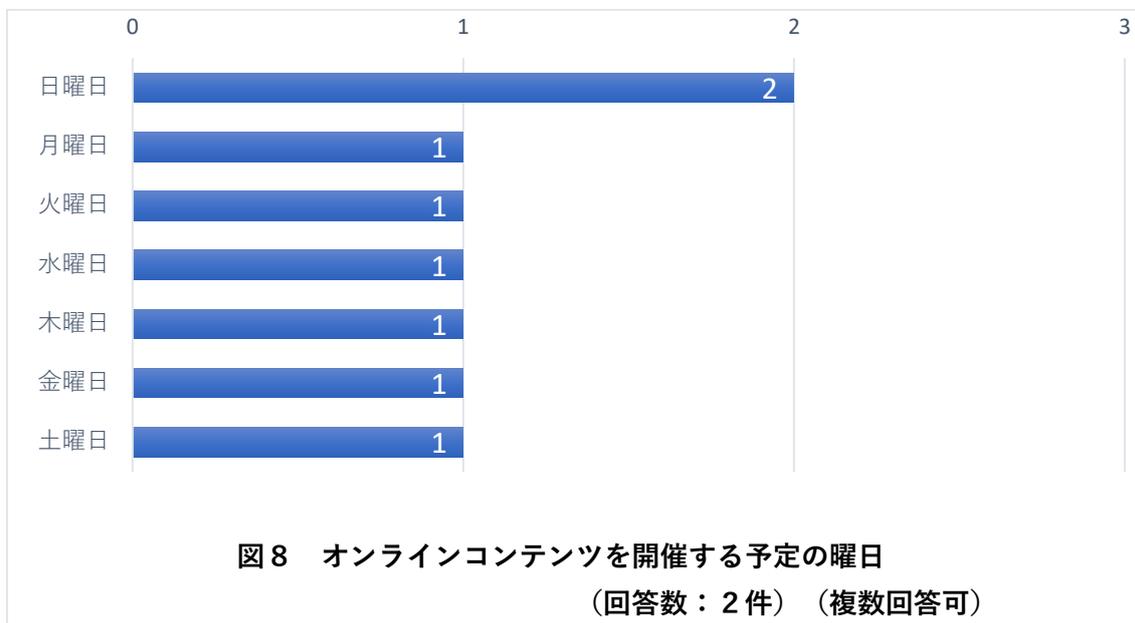
②形式について

実施予定のオンラインコンテンツの形式については、図7のとおりである。



③オンラインコンテンツを開催する予定の曜日

オンラインコンテンツを開催する予定の曜日は、以下の図8のとおりである。



④オンラインコンテンツを開催する予定の時間

オンラインコンテンツを開催する予定の時間については、以下のとおりである。

(回答数：2件) (自由記述形式)

- ・10:00～12:00・・・2件

⑤受講してほしい主な年齢層

受講してほしい主な年齢層については、以下のとおりである。

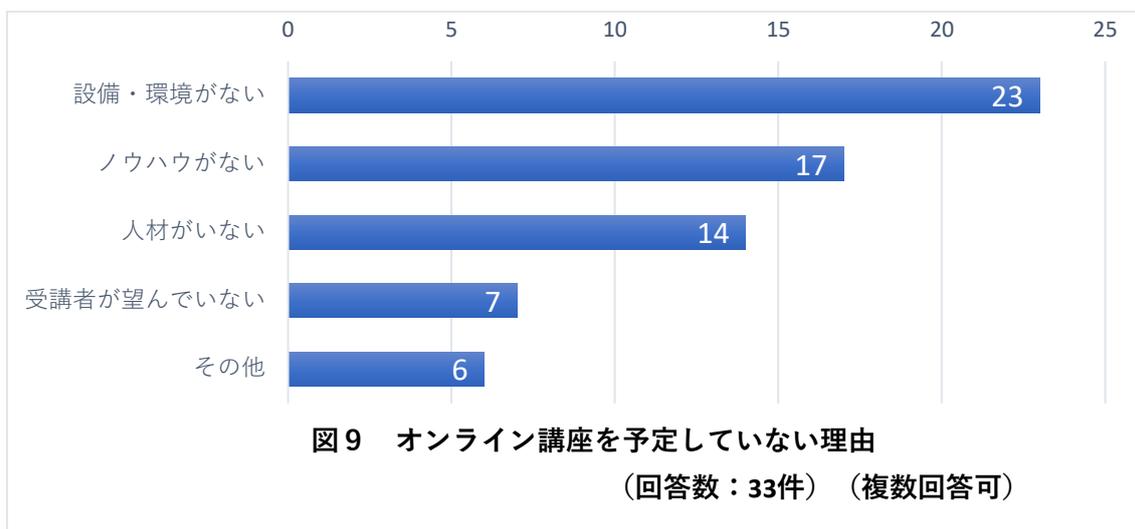
(回答数：2件) (自由記述形式)

- ・どの年齢層でも
- ・30～50代

以上のことから、2施設のみではあるが、今後オンラインコンテンツを活用した講座を行う予定であり、ジャンルは「料理」、「応急手当」、「子育て」、「歴史」で、「料理」と答えた施設に関しては、特に「パン作り」と、かなりやることを絞り込んでいるようである。また、オンラインでの料理講座を行うにあたっては、Zoomを使う予定とのことであった。

(5) 今後オンライン講座を行わない予定の施設について

「(3) 現在オンラインコンテンツを利用した生涯学習等を行っていない 33 施設について」、「今後行う予定はない」と答えた施設について、その理由についてみてみたところ、図 9 のような結果となった。



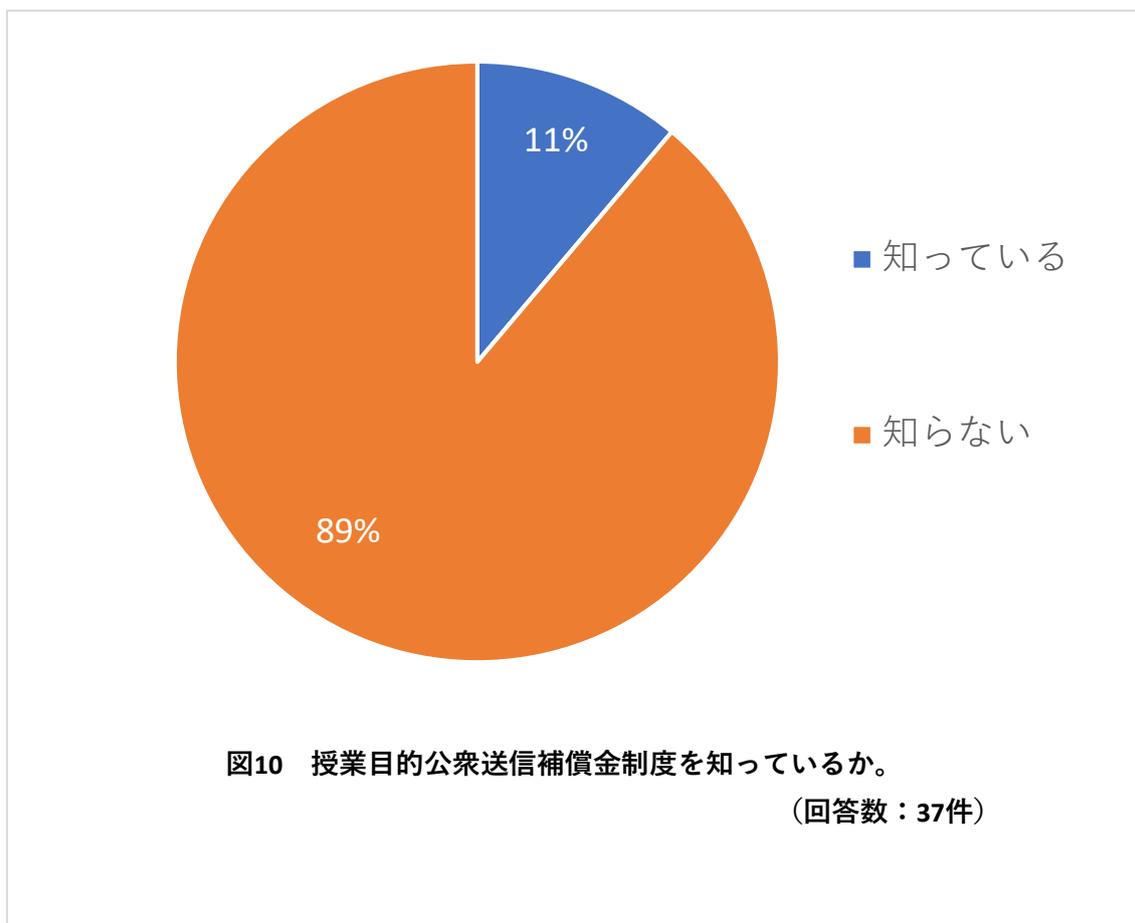
その他の理由：・小規模公民館であるため需要があるかどうか不明。また将来的に施設の統合を予定しているため。

- ・交流センターは貸館業務のため事業はしない
- ・次年度実施の内容、時期等を検討中のため。
- ・当施設は出前講座のみ。自主団体利用のため、独自の講座は行われていない。
- ・整備・環境面は充分とは言えないが対応できるよう整備済み。ただし、使用できる居室が一部に限られるほか、受講者からの要望もなく、また対応できる職員が少ないこともあり、運用に至っていない。
- ・現時点で予定がない。

以上のような結果であった。1番多い理由は設備、環境の問題であると思われる。しかし、設備・環境が無いと答えたのは、27施設で残りの6施設は設備・環境が有ると言うことである。それでも実施予定がないと言うことは、設備・環境以外の要因、例えば人材や予算、利用者の要望が無い等複合的な理由により実施予定が無いと考えられる。また、公民館及び公民館類似施設の業務形態が貸館業務のみであったり、出前講座のみであったりする場合もオンライン講座を行うことは難しい。ノウハウについては、既に行っている施設等から、直接やり方を聞く方法がある。また、人材がないという理由については、予算の関係等の問題も発生することから解決は容易ではない。

(6) 授業目的公衆送信補助金制度について

「授業目的公衆送信補償金制度」について、知っているかについての結果は、
図 10 のとおりである。



「授業目的公衆送信補償金制度」については、11%（4施設）が知っており89%（33施設）が知らないと答えた。著作権の問題を考えると、オンライン講座を行う際には、知っておかなければならない制度の一つと考えられるため、各施設への周知が必要であると考え。

第3章 ヒアリングの結果

【1 那珂市中央公民館】

1 施設について

- (1) 所在地 那珂市福田 1819
- (2) 連絡先等
- ア 電話番号 029-298-5680
 - イ ファックス番号 029-295-6972
 - ウ メールアドレス chuuou-k@city.naka.lg.jp
- (3) 施設概要
- ア 施設面積 16286.3 m² (鉄筋コンクリート、一部鉄骨鉄筋コンクリート造り地上2階)
 - イ 部屋数等 11
- (4) 沿革
- 那珂町中央公民館は、昭和31年6月1日に設置され、平成17年1月21日、旧那珂町と旧瓜連町が合併して那珂市が誕生することに伴い、那珂市中央公民館となる。那珂市民の生涯学習の拠点として、子どもからお年寄りまで、いろいろな人が集まり、学習し、お互いを高め合い、人々の輪を広げる場となっている。
- (5) 職員数 6名

2 事前のICT環境調査 (ICT活用に必要な整備等の状況について)

- ・50インチモニター1台、プロジェクタースクリーン2台がある。特に、50インチモニターは、講座等でよく活用をしている。
- ・端末については、利用者に貸し出せるものはない。
- ・モニターや音響、Web会議用で使用するカメラ等は公民館にはないため、市役所の担当課(管財課)から借用している。

3 ICTの活用等事例

(1) -1 講座・企画

ア 講座名 結果が嬉しい!顔ヨガレッスン(オンライン開催)

イ 概要 公民館講座「ウィメンズクラス」の第2回講座として開催。顔の表情筋を鍛え、笑顔に自信を持たせるためのレッスン。本来は対面での開催であったが、東京在住の講師のためオンライン(ミーティングアプリZoom)で開催することになった。

ウ 企画内容(時間、内容)

日時	内容	講師
2021年6月3日	顔筋トレ	東京在住の女性

エ 講座形態(同時双方向型)

- (ア) 参加人数 20人(公民館会議室)
- (イ) 施設における機材やその設置方法
市の管財課から借用のため無料
(パソコン1台、スクリーン1台、マイク、カメラ、プロジェクター、タブレット)
- (ウ) 講師と参加者とのやりとり
カメラで教室全体を映し、タブレットで受講生の顔をアップにして、先生に見えるようにする等の工夫をした。

オ 成果と課題

(ア) 良かった点

コロナが流行った時期だったので、東京在住の先生に来てもらうことは受講生にも不安が生じていたので安心して受講をすることができた。(前もって講師と公民館でリハーサルをしていたので当日の心配はなかった)

(イ) 改善すべき点

特になし。講師、受講生ともに満足いく講座であったとの感想がほとんどであった。

(1) - 2

ア 講座名 オンライン公民館まつり 2021

イ 概要 中央公民館を定期利用している団体等の活動発表の場である《公民館まつり 2021》の展示部会と発表部会を、2021年度はオンラインで実施。

ウ 企画内容 (時間、内容)

日時	内容
2021年	公民館の定期利用団体のうち展示部会 7 団体、発表部会 7 団体の参加でオンライン配信 <展示部会> 那珂あせび会、フォトなか、墨翠会、根本正顕彰会、菅谷地区まちづくり委員会、万葉グループさわらび、ひまわりスポーツクラブ <発表部会> 大正琴 水曜会、大正琴 孝響ハーモニー、太極拳 (那珂ジェンメイ、ひだまり、スマイル)、那珂混声合唱団、那珂太鼓保存会

エ 講座形態 (オンデマンド型)

- ・那珂市のホームページにYouTube でアップして視聴してもらった。
- ・作品 (絵画等) の撮影や、演奏・演技の収録も職員が実施したため、撮影料等はかかっている。機材も公民館の備品を使用した。

オ 成果と課題

(ア) 良かった点

何よりも「中止にならなくてよかった」との団体からの評価があった。そして、活動の成果が全世界から見ることができ、たくさんの友人に見てもらえたと歓喜の感想をもらっている。

(イ) 改善すべき点

編集はプロではないので、単純な映像となってしまった。演技のアップ等を組み合わせた編集ができればよかった。



(1) - 3

ア 講座名 まついえつこ先生のオンライン・カラオケ

イ 概要 まつい先生が曲を弾いて受講生の自宅と公民館をつないでカラオケ講座を行う。

ウ 企画内容

日時	内容
2021年12月4日	カラオケで100点をとるコツについて、オンラインで学ぶ講座。

エ 講座形態

- ・講師の自宅スタジオと、受講生の自宅等、事務局（公民館）をミーティングアプリ Zoom で結び、講座を実施した。
- ・機材等は、市の備品を使用した。一般社団法人授業目的公衆送信補償金等管理協会に授業目的の公衆送信補償金を支払った。（年度実施分まとめて実施後に支払い）



- ・その他として、対面に比べて、講師と受講生が個別に話す時間が長くなってしまった。まつい先生はオンライン講座に慣れており、まんべんなく受講生に話しかけてくれたので、受講生も安心して取り組めた。

オ 成果と課題

(ア) 良かった点

- ・著作権については、一般社団法人 日本音楽著作権協会（JASRAC）に相談し、講座の運営方法等を決めた。（音源は講師の生演奏、楽譜は受講生が各自購入するなど）

(イ) 改善すべき点

- ・今回の講座については、当日まで最善を尽くして開催したが、音楽に関する講座は著作権について一般社団法人 日本音楽著作権協会（JASRAC）や関係機関によく相談することが必要だと感じた。

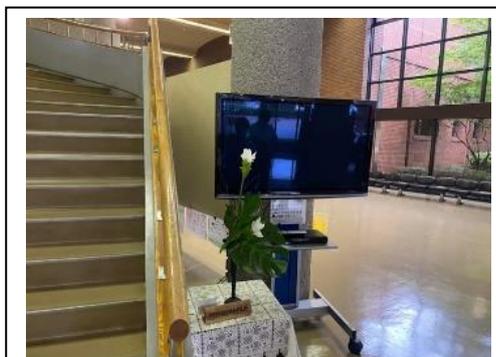
(2) 講座・企画以外の学習支援

- ・高齢者向けのスマホ教室（市役所管財課が実施予定）、Zoom 教室（公民館まつり）で実施。

(3) 機材の工夫



- ・LAN ジャック
2階にインターネットが繋がらなかったため、インターネット環境を整えるためにLANを配線した。



- ・移動式テレビモニターの活用
ポスチャーウォーキング講座では、歩き方を動画で撮影して動画で確認を行い、正しい姿勢やウォーキング中のフォームを視覚からも覚えられるという工夫をした。

4 今後の展望と施設の課題

(1) 利用者の方からの ICT 環境についての要望等

- ・フリーWi-Fi の届く範囲を広げてほしい（1階の1部のみが接続可能である。集会ホール、調理室など使えないため、講座等に広がりがない。集会ホールにWi-Fiを完備できると、有事の時は市民が集まる場所なので、情報を伝える方法が広げられると考える。）

(2) 今後拡充したい点

- ・ICT職員向けの研修、公民館講師向けの研修（Canva講座で動画編集を行い職員も参加）

(3) 具体的に今後実施したい企画

- ・観光地と公民館をつないでのバーチャル旅行
- ・2階にWi-Fiをつなげることで、調理室でもオンライン料理教室を開催したり、調理のデモンストラーションを見るときに、師範台に受講生が集まらなくても各テーブルごとにタブレット等で見られるようにしたりできると密にならず、かつ全員が見やすくなる。
- ・那珂市内の史跡巡りを録画し、発信したい。

【2 笠間市立笠間公民館】

1 施設について

(1) 所在地 〒309-1613 茨城県笠間市石井 2068-1

(2) 連絡先等

ア 電話番号 0296-72-2100

イ ファックス番号 0296-72-2103

ウ メールアドレス kasakomin@city.kasama.lg.jp

(3) 施設概要

ア 施設面積 建物の規模はRC造（一部S造）3階建て延べ床面積 3115.86㎡

外観は、既存のタイル意匠を生かしながら壁全面を補強。

イ 部屋数等 大ホール（512席 内車いす3席）、音楽室、調理室、ふれあいルームA、ふれあいルームB、ふれあいルームC、展示室1、展示室2、大会議室、中会議室、小会議室、和室

(4) 沿革 昭和57年建設

平成29年大規模改修によりリニューアル。

(5) 職員数 7名

2 事前のICT環境調査（ICT活用に必要な設備等の状況について）

・動画撮影について

当初は職員のスマホや三脚を使用していた。

現在（2022年11月18日時点）は、iPadProを導入し、撮影・編集を行っている。

・講座等について

講師資料等はプロジェクターで投影する。

・Wi-Fi環境について

一部の会議室で使用出来ていたが、より広範囲にカバーできるようにホール等にもアクセスポイントを増設した。



3 ICTの活用等事例

○かさま志民オンライン講座（令和2年8月～）

- ・新型コロナウイルス感染拡大により臨時休館となり、新たに開校予定だった「かさま志民大学」が中止になったことにより動画配信による「かさま志民オンライン講座」を開始する。
- ・感染拡大時においても、市民の学習機会を提供することが可能となった。

(1) -1 講座・企画

ア 講座名 笠間の野菜で元気！福王しいたけ

イ 概要 笠間で活躍する人や、笠間ならではのものにスポットをあて、広く市民に周知し笠間の良さを再認識するきっかけとなることを目的として配信。



ウ 企画内容

内容	講師
ジャンボしいたけの栽培方法やおいしい食べ方について栽培の現場で撮影し紹介	笠間市地域おこし協力隊 川島 拓 氏

エ 講座形態（オンデマンド型）

(ア) 閲覧数：430 件（2022 年 11 月 19 日時点）

(1) -2 講座・企画

ア 講座名 エコでおしゃれに
ふろしき・ハンカチ活用術

イ 概要 令和 2 年 7 月からのレジ袋有料化を受けて、スーパーやコンビニのお買い物に便利でおしゃれな風呂敷とハンカチの活用法を学ぶ。

令和 2 年 7 月からコンビニやスーパーのレジ袋の有料化を受けて日本古来の風呂敷の活用を推奨するための配信。



ウ 企画内容

内容	講師
バッグに 1 枚入れておけばさまざまな活用ができる風呂敷やハンカチの使い方の紹介	飯村 久美子 氏

エ 講座形態（オンデマンド型）

閲覧数:681 件（2022 年 11 月 19 日時点）

(1) -1 -2 共通して

ア 施設における機材やその設置方法

国からの交付金を財源に、撮影編集用のタブレットなどを購入して使用している。

イ 講師と参加者とのやりとり

オンデマンド配信のため、やりとり自体はないが、配信を視聴した市民から直接講師に視聴の感想等の声が届いている。

オ 成果と課題

(ア) 良かった点

- ・オンデマンド配信のきっかけは職員からの自発的なアイデアがはじまりで、コロナ禍での生涯学習の機会を提供する方策についての職員のモチベーションの高さを改めて確認することができた。
- ・動画配信をするにあたり他の配信サービスと差別化を図るため、地元に関するコンテンツに着目するという観点で作成した。
- ・人事異動等で職員が異動しても、オンデマンド講座の作成をとおして地元に関するコンテンツに着目する観点がより備わることになり、より笠間市への知識や理解が深まることが考えられる。

(イ) 改善すべき点

- ・ターゲット層の分析など、アンケート等を実施しニーズ等傾向を把握してよりよいものを作成していきたいと考える。
- ・市内の3公民館による会議等でオンライン配信等の技術面において差が出ているため定期的に情報交換を行っているが、技術的な差はまだある。
- ・予算の関係上、機材の補充や Zoom 等配信ツールの導入が難しい。

カ 『かさま志民オンライン講座』について (R4. 1月現在)

- ・動画サイト「笠間チャンネル」で『かさま志民オンライン講座』を28講座配信中。
- ・検索方法 笠間市ホームページ→子育て・教育・スポーツ→公民館→講座案内→『かさま志民オンライン講座』の配信について
- ・URL:<https://www.city.kasama.lg.jp/page/dir011465.html>
- ・講座を企画するにあたっては、「今地域社会に何が必要なのか」「地域にどんな資源があり、どんな人材がいるのだろうか」と常にアンテナを立てておくことが必要だと感じている。

(2) 講座・企画以外の学習支援

○かさま志民大学

スマートフォン活用術 ～デジタル化社会と上手に付き合うには～	スマートフォンでQRコードの読み取りや動画の見方、笠間市からの情報を受け取る方法を学びました。
初心者のためのタブレット活用術 ～指先を使ってLet's脳トレ～	デジタル化社会を便利に豊かにするために、タブレットの基本操作を学び、指先を使った脳トレにもチャレンジしました。

○かさま子ども大学

ロボットプログラミング に挑戦!	学校で学んだプログラミング(スクラッチ)で、車型ロボットを走行、一時停止、ライト点灯、クラクションなどの動作をプログラミングしました。
---------------------	---

4 今後の展望と施設の課題

- (1) 従来のシニア世代中心から、子育て世代や中高大学生などあらゆる世代が利用できる公民館へ
 - ・高校生などを中心としたジュニアリーダーの育成
 - ・SNSを活用した積極的な情報発信
- (2) 今後急速に変化するデジタル化社会に対応できる内容を充実
 - ・オンライン講座のコンテンツ充実
 - ・シニア世代向け ICT 講座 (スマホ・タブレット)
 - ・市内小中義務教育学校において、ひとり1台配付されたタブレットの活用 (プログラミング学習などで ICT を活用した子ども向け講座)

3 ICTの活用等事例

(1) 講座・企画

ア 講座名 デジタル勉強会

イ 概要 高齢者向けにスマホ中心に勉強会を実施

ウ 企画内容（時間、内容）

日時	内容	講師
R4.5.27 13:30~15:30	1. 開講式 2. Wi-Fiの設定	コミュニティセンター職員
R4.7.29 13:30~15:30	1. アプリのインストール 2. ホームページ	コミュニティセンター職員
R4.8.26 13:30~15:30	1. Google アカウントの設定 2. Line の使い方	コミュニティセンター職員

金沢コミュニティ推進会 地域モビリティ部

令和4年度 第1回
デジタル勉強会

デジタル化時代に向け、年齢を問わず、スマートフォン等での情報利用が期待されています。この勉強会ではスマホに不慣れな方を対象に、生活利便向上や交流活動等に活用できるようにするための基礎的な利用方法等について1年間を通して学びます。

「習うより慣れよう」を合言葉に！

2022年5月27日(金) 13:30~15:30

第1回 5月27日(金)

1.開校式 & アンケート記入
2.課題
1) デジタル化とは？
① デジタル化の現状 ② デジタル化が急がれる理由 ③ デジタル化って何が良い？
④ 多様なデジタルサービス ⑤ デジタル機器・サービスの可能性
2) どうやって使うの？
① Wi-Fiって？ ② 交流センター内で使ってみよう（設定、ネット接続）
③ ひたナビをインストールしてみよう

第2回 7月29日(金)

1) いろいろなアプリを使ってみよう（地図アプリ、検索、金沢学区コミュニティ推進会 ホームページの利用）

第3回 8月26日(金)

1) Googleアカウントの取得
2) LINEの設定、使い方

第4回 9月30日(金)

1) 電子メールの使い方
2) フィッシングメールにご用心

第5回 11月25日(金)

1) マイナンバーカードの申請 2) 医療・健康のデジタル活用
3) 遠隔動画利用 (Zoom)

第6回 1月27日(金)

1) ニュースサイトと使い方 2) 公共交通機関と時刻表
3) 電子マネー

＜講座資料の一部＞

エ 講座等の形態（参集型）

(ア) 参加人数

施設内 30名

(イ) 施設における使用機材やその設置方法（具体的な機材の種類と数量のほか、それを揃えるためにかかったおよその金額）

a 機材

プロジェクター、タブレット貸与、スマホは持ち寄り

b 費用

資料のプリント代 30,000円

(ウ) 講師と参加者とのやりとり

- ・グループごとの勉強会、センターには青少年育成に係る部門もあり、行事をとおして幼少期から交流センターとの関わりのある高校生のボランティアが相談役として支援している。

(エ) その他（対面の時との比較など）

- ・地域の特性もあり、オンラインツールを利用するの会議や講座の提供よりは、対面での形式が好まれる傾向がある。「ICT ツールを使用して」というよりは「ICT というツールの使い方」にニーズもあると考える。



＜「デジタル勉強会」の様子＞



<高校生ボランティアの様子>

オ 成果と課題

(ア) 良かった点

- ・高齢者に SNS 等に慣れ親しんでもらうことができた。特に高齢者は、環境の設定をしてからの受講ではスキルが身につかない傾向があることから、ツールの設定から支援者を付けてきめ細かく行う方法をとったため、更なる理解につながったと考える。
- ・地域へのアンケート等は Google のツール（有料版）を使用し、集計等も行っている。

(イ) 改善すべきと思う点

コミュニティセンター内事務の ICT 化

(2) 講座・企画以外の学習支援

（地域の方の PC 等の操作方法支援や、ICT の活用について相談についての内容等）

- ・上記勉強会のほかに、デジタル相談会（個別相談会）を 1 回/月実施している。内容はスマホの取り扱いとアプリ等説明会である。
- ・自宅と生活拠点や最寄りの交通結節点を結ぶラストワンマイルの交通手段として、カート（現在 2 台）が学区内を運行する地域モビリティを運用している。その際の予約方法として電話以外に、Google スケジューラーを活用している。
- ・交流センター利用団体（37 団体）の多くは LINE を学び、連絡網として友達機能を活用している。
- ・マイナポータルや e-Tax の説明会を開催している。

4 今後の展望と施設の課題

(1) 利用者の方から施設の ICT 環境についてどのような要望

Zoom 及び Web を利用した在宅での勉強会の実施

(2) 今後拡充していきたい点（設備、人材、講座などのコンテンツのそれぞれの視点から）

- ・コミュニティ活動の ICT 化（会議室の予約システム等）
- ・現在、ホームページの更新ができる職員は 3 人、また SNS による情報発信もできる職員 1 人はいるが、更には職員や受講者から、行政サービスに係る ICT 活用を支援する「普及員」のようなものも育てたい。

(3) 具体的に今後やってみたいと思う企画（ICT に関する事項）

- ・ホームページの充実（リニューアルはしてあるが、よりニーズに応えられるものにしていきたい。）
- ・本年度内に市より 8 台のタブレットが防災関係で導入される予定であり、防災に係る事項の内容の企画も必要かと考える。

【4 牛久市中央生涯学習センター】

1 施設について

- (1) 所在地 茨城県牛久市柏田町 1606-1
- (2) 連絡先等
- ア 電話番号 029-871-2301
 - イ ファックス番号 029-871-1334
 - ウ メールアドレス chuuou@city.ushiku.ibaraki.jp
- (3) 施設概要
- ア 施設面積 43,232 平方メートル（敷地面積）
 - イ 部屋数等 講座棟→15 部屋 ホール棟→文化ホール、多目的ホール、展示ホール
- (4) 沿革 竣工 昭和 62 年 3 月 25 日
- (5) 職員数 16 名

2 事前の ICT 環境調査

- ・スクリーンを 4 枚所有しており、講座等で活用している。
- ・端末については、利用者に貸し出せるものはない。
- ・施設予約システム用のタブレット端末を窓口に設置したいと考えている。

3 ICT の活用等事例

(1) 講座・企画

- ア 講座名 牛久市生涯学習講座
- イ 概要 「未来を拓き 地域を担う 人づくり」という基本理念を基に、より多くの市民が生涯学習に取り組む機会をつくり、様々な講座や講演会等の開催並びに開催支援を行うことで、市民の学習意欲の向上や充足を図りサークル活動を促す。また、まちづくりや地域づくりに積極的に参加する人材の育成を図る。
- ウ 企画内容（時間、内容）



日時	内容	講師
7月21日(木)	「おもてなし英会話牛久紹介」 パワーポイントの資料を活用しながら、講師や受講生と英会話のやり取りを学ぶ。 →テキストは、市報を使って行った。（著作権対策）	英会話講師 アルバーニ純子氏
7月18日(月) 8月1日(月) 9月5日(月)	「プチお片付け実践編」(全3回) 毎回テーマを決め、先生のポイント解説後それぞれアドバイスを貰いながら、自宅の片づけを行う。	整理収納 コンサルタント 國生輝枝氏
9月10日(土)	「オンラインシャトー探検」牛久高校演劇部の生徒が案内人、牛久シャトー株式会社社員が解説役となり、牛久シャトーのオンラインツアーを行う。 →Zoomでリアルタイム配信。 →回線は、ポケットWi-Fiを使用。 (1ヶ月3,000円程度) →リアルタイムでの動画は、スマホを使用した。 →手持ちで集音できるマイクを図書館で借りた。	案内人 牛久高校演劇部

<p>9月25日(日)</p>	<p>「オンラインで楽しく美味しく！初めてのパン作り」 オンラインでフォカッチャ作りのコツを学ぶ。受講生は自宅でパン作りを行いながら、不明な点は適宜講師に質問を行った。 →講師とは音声で受講生とやりとりをした。 →「調理実習室」がある奥野生涯学習センターにて行った。 →当日職員は3名で対応した。</p>	<p>パン研究家 野内 周子 氏</p>
-----------------	--	-----------------------------------



<講座の様子「パン作り講座」>

エ 講座形態（同時双方向型）

(ア) 参加人数（施設内2～3人、施設外からのアクセス10人）

(イ) 施設における使用機材やその設置方法

- ・配信用 PC ・Zoom プロライセンス ・Web カメラ ・マイク
- ・ライト ・三脚、コネクタ等 約15万円×3館

(ウ) 講師と参加者とのやりとり

- ・現在は参加人数が少ないため、1対1でのやり取りが可能。

(エ) その他

- ・気軽に自宅から受講できるメリットもあるが、講師との細かなコミュニケーションは対面よりも少なくなってしまう。

オ 成果と課題

(ア) 良かった点

- ・コロナ渦でもリスクが少なく講座の開催が可能になったこと。（料理講座等も）
- ・外出が難しい方の受講が可能となったこと。
 →スマホ講座、PC講座、Zoom講座（使い方及びホストの設定等）を対面で行っており、受講生がオンラインでできるように間口を広げている。

(イ) 改善すべき点

- ・画質や音量等配信環境
- ・受講者のネット環境が悪いことと、インターネットに関する知識が少ないこと。
- ・受講料の納入方法
 →画質が悪い。
 →Wi-Fi（回線）が切れることはなかった。
 →受講料の納入方法は、「納付書」を使用しており、大いに不便を感じる。

カ 講座・企画以外の学習支援

- ・Zoomの使い方、Wi-Fiのつながり方など基本的なことやインターネット講座予約システムの利用登録方法、申込の仕方などについて電話での問合せが多い。
 →電話の問い合わせの場合、回答に30分程度時間を取られることが多く、今後の課題となっている。
 →オンライン受講希望者には、基本的にメールを使って通知等を行っている。講座予約システム

未登録者（葉書または窓口での申込者）には手紙でお知らせしている。

4 今後の展望と施設の課題

- (1) 利用者の方からの ICT 環境についての要望等
 - ・Web 会議を行うため、小さい部屋への Wi-Fi の導入。現在は窓口周辺に市のフリーWi-Fi、大講座室、中講座室、会議室に部屋ごとの Wi-Fi が通っている。
- (2) 今後拡充したい点
 - ・オンライン対応可能講師の開拓
- (3) 具体的に今後実施したい企画
 - ・YouTube 限定公開で動画配信形式の講座。編集ができるため画質や音質等の問題に対応できると考えられる。職員の動画撮影、編集の技術、機材が必要になる。
→職員の ICT に関する研修に関しては、担当が自ら研鑽しているのが現状である。

【5 守谷市民活動支援センター】

1 施設について

(1) 所在地茨城県守谷市御所ヶ丘5-25-1

(2) 連絡先等

ア 電話番号 0297-46-3370

イ ファックス番号 0297-46-3320

ウ メールアドレス moriyaborantial@themis.ocn.ne.jp

(3) 施設概要

ア 施設面積373.68㎡ イ 部屋数等3部屋

(4) 沿革

平成14年 守谷市民活動支援センター開設（浄化センター内）

平成18年 中央公民館内に事務所移転

平成20年 市民交流プラザ内に事務所移転

平成24年 もりや市民大学開校

平成28年 NPO法人協働もりやに委託

令和3年 もりや市民大学ハイブリット形式で開講

(5)職員数 5名

2 事前のICT環境調査

- ・ICT系の講座を行うにあたって、貸し出し用のPC11台を用意している。
- ・モニター3台（最大55インチ）、スクリーン2枚を所有している。
- ・PCに接続して会議室内を撮影するカメラ2台を所有している。
- ・PCに接続して会議室内の音声を集音するマイクを所有している。
- ・会議室内で使用するワイヤレスマイクとスピーカーシステムを所有している。

3 ICTの活用等事例

(1) 講座・企画

ア 講座名 もりや市民大学

イ 概要

協働のまちづくりの人材育成として、守谷の市政や歴史を学ぶ「守谷を知るコース」や、シニアライフを考える「いきいきシニアコース」など4つのコースを開催。全58講座、学生数68名に対して対面とオンラインでの授業を実施。

ウ 企画内容（時間、内容）

日時	内容	講師
6/18	守谷の経済	商工会会長 小川一成 氏
8/26	高齢者のこころと健康	筑波大学教授 水上勝義 氏
9/3	守谷で「かかりつけ医」をもとう	国保年金課・保健師 岩瀬利恵 氏

エ 講座形態（同時双方向型）

(ア) 参加人数

守谷を知るコース：施設内受講生15名（コロナ禍のため人数制限）+オンライン受講生16名

(イ) 使用機材

- ・Zoom接続用PC 4台 ・TVモニター（55インチ）1台 ・集音マイク 1台
- ・会議室用カメラ 2台 ・ワイヤレスマイク 2台 ・スピーカー 2台
- ・会議室専用のWi-Fiルーター 1式

（尚、約10年前から設備を少しずつ揃えているため、全体の費用については不明）

(ウ) 講師と参加者とのやりとり

- ・会場で講義を行い、オンライン参加者は自宅にてZoom参加。質疑応答有。
- ・質疑応答方法については、対面参加者は通常通り、オンライン参加者は画面上で挙手をしたのち、それぞれミュートを外して質問してもらう。オンライン学生からの質問はTVモニターから会場に流れる。また、チャットに関しては、随時受け付けている。

(エ) その他

- ・PCやネット環境などが必要になるが、リモートを活用することで多くの市民との交流が可能になると思う。

オ 成果と課題

(ア) 良かった点

- ・コロナ禍でも開催可能。会場に人数制限（支援センターの会議室の場合は最大収容人数20名まで）があってもオンラインで参加可能。なお、Zoomは100名程度でも対応可能。
- ・自宅で参加できるため、子育て中の母親も子どもを膝に乗せて参加している。
- ・会場に来なくても参加できるため、仕事をしている若い世代も参加するようになった。

(イ) 改善すべき点

- ・Wi-Fi経由のネット通信が不安定になり、Zoomが切れることがある。
→途切れた場合に備え、予備PCを準備して繋ぎ直す対応をしている。

(2) 講座・企画以外の学習支援

- ・PCの設定、基本的な操作方法、Zoom接続方法について質問あり
→スタッフが丁寧に指導している。場合によってはPCを持参されることもある。
- ・Zoom活用とは別に、Googleなどのアプリケーションを活用している。
→例えばGoogle Formsのアンケート機能を使用し、毎回の講座についてアンケートに答えていただくことで、講座内容への反映と出欠判定にも活用している。

4 今後の展望と施設の課題

(1) 利用者の方からのICT環境についての要望等

- ・Wi-Fiが弱く、ネット通信が不安定になる場合がある。
→中継器を使用しているが、根本的な解決になっていない。

(2) 今後拡充したい点

- ・処理スピードが速いPCの導入。→来年度1台導入してもらう予定

- ・Zoom使用時の大型モニターの導入（55インチでは物足りない）

(3) 具体的に今後実施したい企画

- ・高齢者がデジタル難民にならないように生活に密着した体験型アプリ講座を開催したい。
→具体的には、クッキングアプリ、買い物アプリ、お散歩アプリ等
中学生・高校生にボランティアで講座の補助をお願いし、シニア世代との交流も広める。

5 その他

- ・市民大学講座に関しては、守谷市が予算を出している。
- ・守谷市民活動支援センター自体はNPO団体である。
- ・オンライン受講者は、ほぼPCで受講している（スマホでも受講は可能）。

【参考】 もりや市民大学で使用した機材



講師のマイクで話している音声についてはスピーカーを使用して講座室全体に届けさせ、スピーカーの前にマイクを置いて、オンライン受講者に音声を届けている。



○職員の前に設置してあるPC2台の内、1台はZoom開催用のホストPC、もう1台は会場のTVモニター出力とZoom用の音声収集用に使用している。右奥にある1台は、オンライン受講生の実際に見ている画面を確認するためと、Zoom切断時の予備PCとして使用している。



○講師とTVモニター。TVモニターの画像は、Zoomの共有画面であり、オンライン受講生も同一の画像をPC等で視聴できる。来所の受講生は、前方のTVモニターにて講師の資料を視聴している。尚、TVモニターの上部にwebカメラがあり、会場全体の映像を映してオンライン学生に配信している。



○講師を写しているカメラ。カメラ自体は標準的な Web カメラを使用している。講師の話している様子をオンライン受講生に配信している。



○会議室内に Wi-Fi を発信しているルーター装置。支援センター全体で Wi-Fi を使用できるように別途中継器も使用している。

令和3年8月	夏休みポスター講座<小学生対象> (全3回) 延べ11名	生井澤 良一 氏
--------	---------------------------------	----------



<講座の様子「声の出し方講座」>



<講座の様子「夏休みポスター講座」>

エ 講座形態

(ア) 参加人数

前記、「ウ 企画内容 (時間、内容)」 のとおり

(イ) 使用機材

【撮影用】ビデオカメラ (3台)、三脚

【配信用】PC (ノート) 1台

【画像編集用】スイッチャー (ATEM Mini Pro by Blackmagicdesign) 約7万円

【その他】Zoom ミーティングのアカウント (100名までのもの)

Bluetooth ワイヤレスマイク 約2~3万円



<使用機材 : ATEM Mini Pro by Blackmagicdesign>

<使用機材 : Bluetooth ワイヤレスマイク>

(ウ) 講師と参加者とのやりとり

【YouTube】視聴のみ (質問はコメントで受付した)。

【Zoom】・講義型 (視聴、質疑応答)

・参加型:健康体操講座 (講師の実演、参加者実演)

表情豊かな声の出し方 (講師の実演、個々の実演)

夏休みポスター講座 (参加者作品提示、指導)

(エ) 対面時との比較

- ・概論の時間は全体で視聴し、個々の作品等を添削する場合は時間を決めて小編成にする」など、講座の構成によっては来場よりも効率的な受講ができる。
- ・講座の受講→クラブ化→地域コミュニティという従来の流れと、オンラインでのコミュニティの棲み分けを考慮していく必要があるのではないか。
- ・コロナ禍により、地域で育んできた「クラブ」活動を行う機会が失われてしまうことを防ぐため、また、高齢者の楽しみを続けていくため、コミュニティ継続の在り方について検討をした結果、オンラインを活用した新しい活動手段（画面を通してみんなでつながれる、家からでも参加できる、マスクを外しても安心・安全な環境）に着手した。
- ・講座を存続させていくためにはどうしたらよいかという観点で、ICT機器を活用した内容や運営に取り組んでいる。（最新の機材、先進的な取り組みを意識して取り組んでいるわけではなく、客観的に受講者や講師のことを考え、また、講座の内容がよく伝わるようにするにはどのようにすればよいかを考え、無理のない範囲で取り組んだ結果が今の運営スタイルにつながった。）

(オ) その他

- ・YouTubeでのアーカイブを配信するに当たっては、複雑な編集はせず、タイトルを入れる程度に抑え、職員の仕事の軽減を図っている。
- ・伝統や文化等の地域性を大切にし、その土地に合った内容や講師を取り扱っている。（地元を意識した地元の方のための講座を行っている。）
- ・講師の方は、100%地元の方をお願いをしている。

オ 成果と課題

(ア) 良かった点

- ・参加者がマスク不要のため、運動や表情を見ないと難しい講座に適している。

(イ) 改善すべき点

- ・生配信の際に、音声や映像の調整がうまくいかない時がある。

(ウ) 講座・企画以外の学習支援

- ・Zoomの講座を実施する際に、事前にZoomの使い方の講座を実施しているが、家に帰ると使い方が分からなくなり来館される。

4 今後の展望と施設の課題

- (1) Zoom、SNS、YouTubeに関する経験値、知識を高める等、職員のスキル向上
- (2) 高校生を講師としたスマートフォン講座
- (3) 「インスタでつながる公民館」での、子どもオンラインに参加

【7 茨城県 水戸生涯学習センター】

1 施設について

(1) 所在地 水戸市三の丸1-5-38 茨城県三の丸庁舎3階

(2) 連絡先等

ア 電話番号 029-228-1313

イ ファックス番号 029-228-1633

ウ メールアドレス lifelong@mito.gakusyuu.ibk.ed.jp

(3) 施設概要

ア 施設面積 1638.92 m²

イ 部屋数等 講座室3 (大講座室、中講座室、小講座室)

他6 (所長室、印刷室、講師控室、事務室、ボランティア室、倉庫)

(4) 沿革

昭和62年10月 茨城県生涯学習推進会議が「生涯学習センター」設置を提言

平成2年3月 茨城県生涯学習推進協議会が「生涯学習センター」設置を提言

平成5年4月 開所

平成11年4月 (財)茨城県教育財団が茨城県教育委員会から茨城県水戸生涯学習センターの管理運営及び事業の実施について委託を受ける

平成18年4月～ 指定管理者：(財)茨城県教育財団(平成23年3月31日まで) 4期目

平成25年2月 茨城県三の丸庁舎3階(水戸市三の丸1-5-38)へ移転

(5) 職員数 16名

2 事前のICT環境調査

- ・ICT関係の講座を行うにあたって、貸し出し用のiPad25台が用意している。
- ・Zoom研修やGoogle Formsの使い方等、職員向けの研修を随時行っている。
- ・ハイブリッド講座でクリアな音声を配信できるように、所内のマイクシステムをZoomに繋いで使用できるようにしている。
- ・Wi-FiはIBARAKI FREE Wi-Fiを使用している。

3 ICTの活用等事例

(1) 講座・企画

ア 講座名

現代的課題対策講座「住み慣れた地域で活躍する一歩～フレイル予防の視点から～」

イ 概要

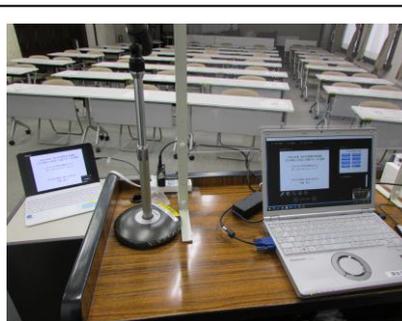
高齢化に伴う運動機能の低下は、地域社会とつながりをもつ機会を奪うだけではなく、ストレスの増大や社会的孤立を生む要因ともなっているという現状(フレイル)を知り、自身はもちろんのこと、身近な地域社会での他者のフレイルを予防する方法も学び、地域ネットワークの維持等についても学ぶ内容の講座。

ウ 企画内容（時間、内容）

日時	内容	講師
11月26日(土) 13:30～16:00	ロコモティブシンドローム予防について	筑波大学附属病院 水戸地区医療教育センター スポーツ医学センター長 平野 篤 氏
12月3日(土) 13:30～16:00	健康寿命延長のカギ —運動と食事—	筑波大学附属病院 水戸地区医療教育センター 総合病院水戸共同病院 地域医療教育センター長・教授 小林 裕幸 氏
12月10日(土) 13:30～16:00	認知症予防および認知機能の低下予防について (1) 様々な認知症性疾患と予防について (2) 認知力アップデイケアの活動を通して普段の生活に生かせること	医療法人社団有明会 栗田病院 院長 阿部 秀三 氏 作業療法士・認知症予防専門士 山本 一貴 氏
12月17日(土) 13:30～16:00	オーラルフレイル予防について (1) 歯科口腔外科の見地から (2) 嚥下障害のリハビリテーション ～安心して楽しく食べよう！～	筑波大学附属病院 水戸地区医療教育センター 歯科口腔外科長 伊藤 寛之 氏 リハビリテーション科 教授 松元 秀次 氏



<講座の様子>



<講師演台（講師用 PC・モニター）>



<配信の様子>



<配信用カメラ1 高画質用>



<カメラ配信セット
(ホスト機・カメラ用機・担当モニター)>



<配信用カメラ2 ハンディカム>

エ 講座形態

(ア) 参加人数 31 人（施設内 28 人、施設外からのアクセス 3 人）

（定員：県民 40 人程度）

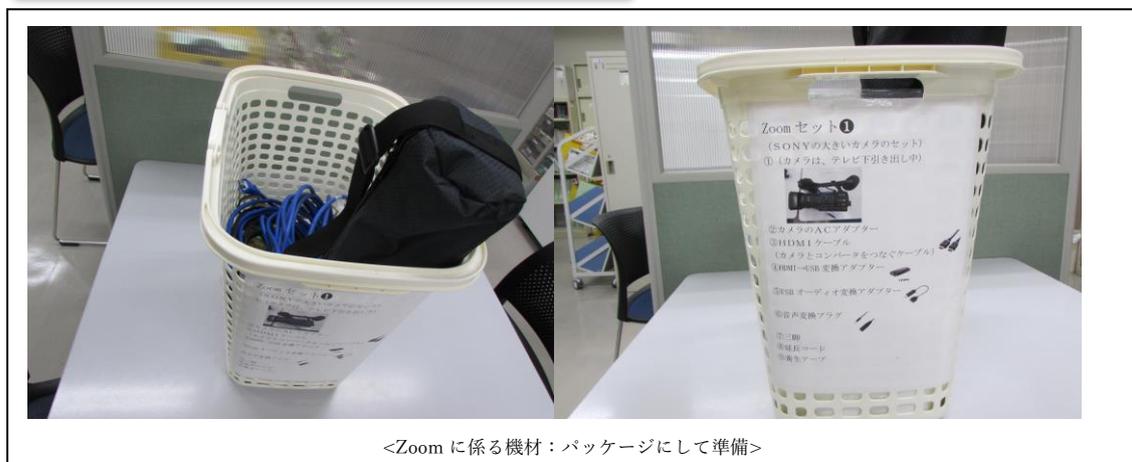
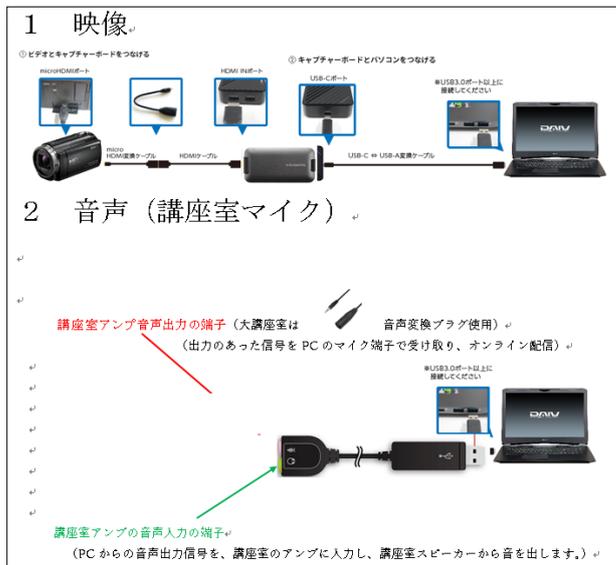
(イ) 使用機材

① 使用機材（約 200,000 円 但し PC は中古品）

機材等名称	個数
ビデオカメラ	1
配信用 PC	1
オンライン受付用 PC	1
ビデオコンバーター（変換器）	1
USB オーディオ変換アダプター	1
三脚	1
HDMI ケーブル	1
音声ケーブル	1



③設置イメージ



(ウ) 講師と参加者とのやりとり

- ・基本的には、講師マイクの音声を参加者は会場のスピーカー経由で提供し、同じ音声を LINE 出力でオンラインに配信している。

- ・質問等のやりとりについては、オンライン受講者のスキルがあればチャットで、そうでない場合にはマイクをオンにしての音声のやりとりを行っている。
- (エ) ほかに気づいたこと（対面の時との比較など）
- ・講師提供資料（主にパワーポイント画像）は、オンライン受講者には講師画面を共有しての資料配信が主となり、講師の身振り手振り等のライブ感は伝えにくい。
 - ・講師にとっても、オンライン受講者の反応を詳しく瞬時に感じる事が難しいとのことであった。

オ 成果と課題

- ・全国から著名な講師を呼ぶことができるため、講座の質をより保つことができる。
 - ・機器によって配信の仕方が異なるため、職員の研修が必要であり、全員ができるようにしていきたい。
- (2) 講座・企画以外の学習支援
- ・オンライン講座前に、受講に不安のある受講生に対して事前に配信テストをしている。
 - ・PCの使い方やWi-Fiのつなぎ方について、操作に関する相談があった。

4 今後の展望と施設の課題

- (1) 利用者の方から施設の ICT 環境の要望
- ・現状利用者はいばらき IBARAKI FREE Wi-Fi を利用しているが、Zoom 等でオンライン配信を予定している団体等からは有線回線での使用希望もある。
- (2) 今後拡充していきたい点
- ・予備機材の確保
 - ・オンライン配信に特化した人員の確保
- (3) 今後行ってみたい企画
- ・当センターと他の社会教育施設（公民館等）を結んでのサテライト講座
- (4) その他
- ・令和2年度以前からオンライン（YouTube 動画）での講座配信を行ったものもあったが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大等により、学びのバリエーションをより多くとの考えから、令和3年度から積極的なオンラインでの提供を開始した。
 - ・令和2年度以前からオンライン（YouTube 動画）での講座配信を行ったものもあったが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大等により、学びのバリエーションをより多くとの考えから、令和3年度から積極的なオンラインでの提供を開始した。

【オンライン配信の主な事業・講座】

<令和3年度>

- ・オンライン提供の講座：6 講座
- ・オンライン受講等 ICT に係るフォローアップ講座：2 講座
 - ①「スマホタブレット講座」（全5回、延べ138人）
 - ②「今日からあなたも Zoom デビュー」（全2回（同一内容で実施）、延べ29人）

<令和4年度>

- ・オンライン提供の講座：16 講座
- ・オンライン受講等 ICT に係るフォローアップ講座
 - 現代的課題対策講座「いまさら聞けない！？まるわかり Zoom の使い方講座」（全4回、延べ74人）

※他、各種委員会等はオンライン形式で実施

3 ICT の活用等事例

(1)-1 講座・企画

ア 講座名 「世界遺産から見たヨーロッパのパラダイムシフト」

イ 概要

ヨーロッパでルネサンス隆盛の15世紀から三十年戦争終結までは「長い16世紀」と言われ、パラダイムシフト（価値観の変革）の時代であった。“変革の今”を生きる我々にとって有用なヒントをこの時代の世界遺産から探る。

ウ 企画内容（時間、内容）

日時	内容	講師
6/18 10:30~12:30	ルネサンス建築の特徴と ヴァティカンの権威	世界遺産アカデミー客員研究員 目黒 正武 氏
7/2 10:30~12:30	アメリカ大陸の銀鉱山発見と 封建制解体	
7/23 10:30~12:30	宗教改革が関係する “イギリス国教会”成立	
7/30 10:30~12:30	三十年戦争におけるブルボン王朝と ハプスブルグ家	
8/6 10:30~12:30	「スペイン戦争」と「七年戦争」	

エ 講座等の形態（同時双方向型）

(ア) 参加人数（施設内 40 人、施設外からのアクセス 8 人）

(イ) 使用機材

ノートパソコン 3 台、Web カメラ 2 台

(ウ) 講師と参加者とのやりとり

施設内：施設に来ている講師と参加者が直接対面で対話。

施設外：オンライン参加者がパソコンを通して講師と対話。

(エ) その他

施設に来ている講師はノートパソコンの前に座ったままで、Web カメラの前から自由に動けない。（動くとも画面に写らないから。）



<講座の様子（Zoom 参加の受講者に部屋の様子がわかるように会場の様子を PC で配信）>

オ 成果と課題

(ア) 成果

- ・新型コロナ蔓延で講師が施設に来ることができない場合はオンライン講義に切り替えられるので講座の日程を調整しなくて済む。
- ・新型コロナが不安で外出したくない人でも講義を受けることができる。

(イ) 課題

- ・通信トラブル、機器トラブル、誤操作トラブルなど技術的のトラブルに対して、スムーズに対応できない時がある。



<講座の様子

（講師とは別にオンライン担当者を配置）>

(1)-2 講座・企画

ア 講座名 「親子が幸せになる子育て～非認知能力を育む～」

イ 概要

「非認知能力」自己肯定感を高めるスキルを学ぶ

ウ 企画内容（時間、内容）

日時	内容	講師
6/8 10:00～12:00	・開講式 〈非認知能力とは何かを知る〉	ボーク重子認定 BYBS 非認知能力育児コーチ
6/22 10:00～12:00	〈自己肯定感を高める〉	中村 公子 氏 オンライン担当 高橋 美紀 氏
7/13 10:00～12:00	〈ポジティブにフォーカス〉	
7/27 10:00～12:00	〈自己効力感を高める〉	
8/10 10:00～12:00	〈非認知能力育児と作戦会議〉 ・閉校式	

エ 講座等の形態（同時双方向型）

(ア) 参加人数 16人（内オンライン4～5人）

(イ) 使用機材

プロジェクター、スマホ（持ち寄り）

タブレット、パソコン

(ウ) 講師と参加者とのやりとり

オンライン担当者から講師と参加者をつなぐ

(エ) その他

子育て世代の参加が多く、オンラインに変更することが可能のため、参加率が上がった。

オ 成果と課題

(ア) 成果

オンラインを導入したので欠席率が減り、遠方からでも参加可能であった。オンライン担当者を講師側に用意してもらえたので、講座の進行にセンター職員がつく必要がなかった。

(イ) 課題

録画をとり、振り返り動画があると良かった。

(2) 講座・企画以外の学習支援

- ・スマホを新しくしたため、使い方を教えてほしいといらした方への支援等



<講座の様子（オンライン受講者にも声が届くようにPCを移動させて行っている）>



<講座の様子（オンライン受講者対応PC）>

4 今後の展望と施設の課題

(1) 利用者の方から施設のICT環境についての要望

- ・ICT環境について好意的な意見が多く、オンライン講座を増やして欲しいという意見がある一方、やはり対面形式の講座の方がオンライン講座より良いという意見もある。
- ・お互いの音声が聞き取りにくい時がある。



(2) 今後拡充していきたい点

- ・設備：各教室とも設備が旧タイプで HDMI ケーブルが使えない。
- ・人材：Zoom 操作は一応できてても技術的なトラブルに対処できない場合があるので教育が必要。
- ・講座：その講座に相応しい一流の講師を全国から呼べるオンライン講座を一つ一つ増やす。
- ・オンライン担当者をつける

(3) 具体的に今後やってみたいと思う企画（ICTに関する事項）

- ・海外とのオンライン講座（具体的には親日的な台湾と「日台友好講座」）
- ・全国の博物館・美術館・歴史館・資料館・科学館からの学芸員による講座
- ・全国の大学の先生による講座
- ・小学生のドローンサッカー

【9 レイクエコー 茨城県 鹿行生涯学習センター】

1 施設について

(1) 所在地 行方市宇崎 1389

(2) 連絡先等

ア 電話番号 0299-73-3877

イ ファックス番号 0299-73-3925

ウ メールアドレス lakeecho@lakeecho.gakusyu.ibk.ed.jp

(3) 施設概要

ア 施設面積 6,956.67 m² イ 部屋数等 44 部屋(宿泊含む)

(4) 沿革

昭和 62 年 2 月 27 日 茨城県婦人教育会館 竣工式

平成 9 年 4 月 1 日 「茨城県立婦人教育会館」の名称を「茨城県女性プラザ」に改名

令和 2 年 3 月 31 日 茨城県女性プラザ廃止

令和 3 年 4 月 1 日 公益財団法人茨城県教育財団が指定管理者を受託

(5) 職員数 18 名

2 事前の ICT 環境調査

- ・ ICT 関係の講座を行うにあたって、貸し出し用の PC25 台、iPad20 台を用意している。
- ・ 60 インチ以上のモニター 3 台、以下のモニター 3 台、プロジェクター投影スクリーン 8 台を所有しており、開催の内容や手段に合わせて活用を行っている。
- ・ Zoom の使用方法や講座の開催方法について、職員向けの研修を適宜実施している。
- ・ Wi-Fi は、「IBARAKI FREE Wi-Fi」を使用している。

3 ICT の活用等事例

(1) 講座・企画

ア 講座名 ①はじめてのオンライン講座 ②オンラインステップアップ講座

イ 概要

Zoom をはじめて使う方のための講座(①)と自分でウェブ会議を開きたいと思っている方のための講座(②)。Zoom の開き方、表示の切り替え等から、小グループで交互に会議を開催する方法まで、来所して学び、後日オンライン講座(「自宅で健康づくり～ヨガ編～」、「初心者のためのマネー講座」)を受講する。

ウ 企画内容(時間、内容)

日時	内容	講師
6 月 22 日(水) 10:00～12:00	はじめてのオンライン講座 基本的な操作方法を学ぶ。(来所)	銚田市教育委員会指導課 ICT 指導員 五十野 亀久雄 氏
6 月 22 日(水) 13:00～15:00	オンラインステップアップ講座 Web 会議を開催する操作方法を学ぶ。 (来所)	銚田市教育委員会指導課 ICT 指導員 五十野 亀久雄 氏
7 月 17 日(日) 10:00～11:00	「自宅で健康づくり～ヨガ編～」、 「初心者のためのマネー講座」に参加するために、受講の仕方をレクチャーする。(来所)	鹿行生涯学習センター 講座担当職員

8月7日(日) 8月21日(日) 8月28日(日) 10:00~11:15	ヨーガ (オンライン)	ヨーガインストラクター 小島ゆう子 氏
10月8日(土) 10月22日(土) 11月5日(土) 10:00~11:30	マネー講座 (オンライン)	2級ファイナンシャルプラン ニング技能士 片岡 真紀 氏



<講座の様子「はじめてのオンライン講座」>



<講座の様子「ヨーガ」>



<配線用機器>



<配信用配線>

エ 講座形態 (同時双方向型)

(ア) 参加人数 64人 (施設内32人、施設外からのアクセス32人)

(イ) 使用機材

プロジェクター、Wi-Fi、貸し出し用PC、貸し出し用イヤホンジャック
ウェブカメラ、ウェブ集音マイク、配信用PC2台、大型モニター

(ウ) 講師と参加者とのやりとり

- ・オンライン配信会場での配置、打合せを数回行った。特にヨーガ講座は、映像と左右が反対になるため、講師の練習が必要だった。
- ・参加者には、事前登録されていたメールに入室するための情報を送信しておくなど、利用者がスムーズにオンラインに参加できるようにした。

(エ) その他

- ・オンライン講座を開設するにあたり、利用者が来所し、Zoomの操作を学ぶことが必要だった。来所した利用者のサポートに高校生ボランティアを活用し、操作の疑問を即座に解消できるようにした。利用者のアンケートからも、非常に好評であったため、高校生ボランティアの活用は、継続していきたい。

オ 成果と課題

(ア) 成果

- ・ICTを活用した講座に参加する方々に、講座1回目に参加していただき、オンライン会議を行うアプリの使用方法の実践を取り入れたこと。また、高校生ボランティアを活用したことで、学びがスムーズに行えた。

(イ) 課題

- ・参集型を希望する利用者が多かったことから、ハイブリット型の講座も設計するべきであった。
- ・配信スキルをもっている職員を養成すること。
- ・効果的な機材の導入の検討。

(ウ) 講座・企画以外の学習支援

- ・メールでの申込み方法や、PCの操作について、アプリをインストールすることなど、操作に関する相談があった。

4 今後の展望と施設の課題

(1) 利用者からのICT環境についての要望

- ・3、4階宿泊室にWi-Fiを設置して欲しい。

(2) 今後拡充していきたい点

- ・オンラインとのハイブリット
- ・職員がオンラインやICTを活用できるための研修が必要。

【10 茨城県 県南生涯学習センター】

1 施設について

(1) 所在地 土浦市大和町9番1号ウララビル5階

(2) 連絡先等

ア 電話番号 029-826-1101

イ ファックス番号 029-826-1728

ウ メールアドレス info@kennan.gakusyu.ibk.ed.jp

(3) 施設概要

ア 施設面積 5,200.8 m² (敷地面積)

イ 部屋数等 12室 (多目的ホール、中規模講座室2室、小規模講座室4室、和室講座室2室、軽運動室、創作室、音楽室)

(4) 沿革

平成9年10月 開所

平成18年4月 指定管理者：財団法人茨城県教育財団

平成23年4月 指定管理者：NPO法人ひと・まちなつとわーく

(5) 職員数 15名

2 事前のICT環境調査

(1) ICT関係の講座を行うにあたり、貸し出し用タブレット(iPad+外付けキーボード)35台を用意している。

(2) 60インチ以上のモニター1台、スクリーン(可動式2枚、講座室・多目的ホール備え付け5台)を所有しており、開催の内容や手段に合わせて活用を行っている。

(3) 10名程度の会議において利用できるカメラ・集音マイクは1台、その他講座・講演会では講座室のマイクをつないでいる。

3 ICTの活用等事例

(1) 講座・企画

ア 講座名 女性のためのキャリアアップ応援セミナー

イ 概要 中高年の早期リタイアや定年退職後のキャリア、出産・育児後の女性の社会復帰等、転職や復職、起業に関する講座等を開設し、様々な職業に対する関心を高める機会や第二の人生における職業を考える機会を提供し、生涯学習の視点にたったキャリア形成支援を行う。

ウ 企画内容(時間、内容)

日時	内容	講師
9月10日(土) 10:00~12:00	今のわたしに合った働き方 自分らしく生きるためのヒント	株式会社鶴と学び 代表 吉村 千鶴子 氏
9月24日(土) 10:00~12:00	女性が知っておきたい 税金、年金、社会制度	株式会社鶴と学び 代表 吉村 千鶴子 氏
10月1日(土) 10:00~12:00	ワークやライフに役立つ コミュニケーションマナー	キャリアカウンセラー 菊池 美也子 氏 株式会社鶴と学び 代表 吉村 千鶴子 氏

10月8日(土) 10:00~12:00	これからの働き方について 起業・副業・SNSの活用について	株式会社鶴と学び 代表 吉村 千鶴子 氏
10月29日(土) 10:00~12:00	望むキャリアに近づくための 魅力ある自己紹介の作り方	キャリアカウンセラー 菊池 美也子 氏 株式会社鶴と学び 代表 吉村 千鶴子 氏

エ 講座形態（同時双方向型）

(ア) 参加人数 19人（施設内15人、施設外からのアクセス4人）

(イ) 使用機材

- ・配信用 PC ・Zoom プロライセンス ・Web カメラ（スピーカー内蔵）
- ・プロジェクター ・液晶ディスプレイ

(ウ) 講師と参加者とのやりとり

- ・講師への質問、参加者間の意見交換も可能である。

(エ) その他

- ・遠方や自宅から受講できるメリットがあり、参加者の学びのハードルを一段下げる効果がある。
- ・子育て中の世代でも、参加が可能である。

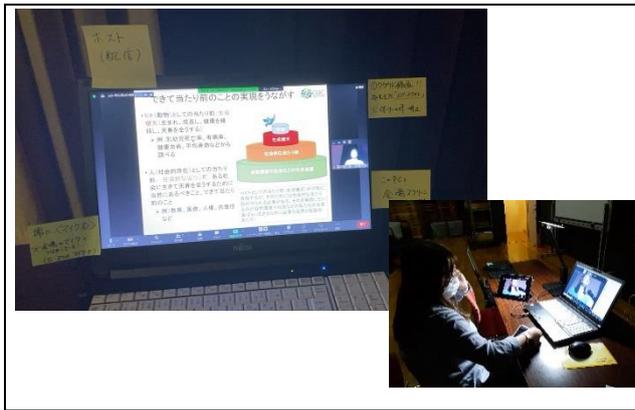


○講師の資料は Zoom の画面共有機能を使って、オンライン受講生に配信しています。



○発表の時間では、オンライン受講者を液晶ディスプレイに投影し、顔の見えるかたちで講座に参加しています。

○オンライン受講者の音声は、会場スピーカーから流し、講師等会場の音声はマイクから直接オンラインに配信することで、相互にクリアな音声を届けています。



○ホスト PC の他、受講生にどのように配信されているかをチェックするため、タブレット等も用意し、配信状況を確認しています。

オ 成果と課題

(ア) 成果

- ・コロナ渦においても講座開設へのリスクがない。
- ・5回シリーズの中、対面からオンラインでの参加形態の変更も可として実施した事で、参加者の継続した学びを保証できたこと。

(イ) 課題

- ・オンデマンド配信可能の講師を開拓すること。

(2) 講座・企画以外の学習支援

- ・現在は、特になし。

4 今後の展望と施設の課題

(1) 利用者の方からの要望

- ・Wi-Fi が繋がりにくい講座室がある。

(2) 今後拡充していきたい点

- ・今後各部屋に Web 会議に対応できる環境を整えたい。

(3) 具体的に今後やってみたいと思う企画

- ・学生との連携した講座運営
- ・ICT 格差解消のための講座

【11 茨城県 県西生涯学習センター】

1 施設について

(1) 所在地 〒308-0843 茨城県筑西市野殿 1371

(2) 連絡先等

ア 電話番号 0296(24)1151

イ ファックス番号 0296(24)1450

ウ メールアドレス info@kensei.gakusyu.ibk.ed.jp

(3) 施設概要

ア 施設面積 20,523 m²

イ 部屋数等 10 部屋

(4) 沿革

昭和 62 年 10 月 茨城県生涯学習推進会議が「生涯学習センター」設置を提言

平成 2 年 3 月 茨城県生涯学習推進協議会「生涯学習センター」設置を提言

平成 6 年 11 月 「茨城県県西生涯学習センター」が開所し、財団法人茨城県教育財団が茨城県教育委員会から管理受託

平成 22 年 12 月 「茨城県県西生涯学習センター」の指定管理者として、特定非営利活動法人日本スポーツ振興協会が茨城県教育委員会から指定を受ける

平成 28 年 4 月 特定非営利活動法人日本スポーツ振興協会による管理運営（二期目）開始

令和 3 年 4 月 特定非営利活動法人日本スポーツ振興協会による管理運営（三期目）開始

(5) 職員数 10 名

2 事前の ICT 環境調査

- ・利用者に、ノートパソコン 2 台、タブレット 25 台の端末が貸し出しできる。
- ・プロジェクター 3 台、スクリーン 10 枚を持っており講座をしている。
- ・講座室すべてに LAN がつながっていないので、都度延長をしている。

3 ICT の活用等事例

(1) 講座・企画

ア 講座名 筑波メディカルセンター病院連携健康講座

イ 概要 新型コロナウイルス感染拡大のためオンライン講座

ウ 企画内容（時間、内容）

日時	内容	講師	開催場所
令和 2 年 10 月 24 日	実際に診療を行う医師から病気の正しい知識や治療法・予防方法を学び、ヘルスリテラシーを高める。	筑波メディカルセンター病院	桜川市大和中央公民館

エ 講座形態

(ア) 参加人数 40 名

(イ) 使用機材

- ・ミキサーオーディオインターフェイス 1 台 20,000 円

第4章 調査研究のまとめ

1 アンケート調査について

(1) アンケート調査結果の概要

今回は、茨城県内社会教育施設における ICT の整備・活用状況を調査したが、実施状況については、オンラインコンテンツを利用した生涯学習講座等を主催している施設は 37 件中わずか 5%（2施設）（第2章アンケート調査 2 調査結果 (1) アンケートについて b オンライン講座の実施状況 p.5）と、少ない状況にあった。これは大きく 3つの理由があると推論される。第1に、施設にオンライン講座に対応できる物理的環境が整備されていないことが挙げられる。第2に、施設利用者の多くが高齢者であり、パソコン・タブレット・スマートフォン等の情報端末を所持していても操作方法が分からないことや、オンラインではなく仲間と一緒に対面型で学習したいといった要望が強いことが挙げられる。第3に、施設に ICT を活用できる職員等が少ないことが挙げられる。

今回の調査の対象となった事業の多くは、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い対面型からオンライン型へ変更せざるを得ない状況で実施されたと考えられる。一方で、新たにオンライン型の研修を実施した施設では、これまでの対面型の講座だけでなく新しい講座提供の方法を得られたことや、コロナ禍においても事業を中止することなく社会教育活動の場を提供することができたことなど、大きな成果が見出されたのではないかと考えられる。さらに、受講者にとっても場所や時間の制約が軽減され様々な形で講座を受講できたという大きなメリットもあると考えられる。

(2) アンケート調査から見えた課題

本調査で把握したとおり、全国的にも新型コロナウイルス感染症拡大によって、オンライン事業を始めた施設があることは先程も述べたが、オンラインコンテンツを活用することにより、これまで仕事関係や子育て、介護等諸々の事情によって対面型の講座に参加することができなかった受講者にも、学習機会を提供することができたことは非常に大きな成果であると言える。

今後、少なくともコロナ禍の状況が続く限り、オンライン事業へのニーズはさらに高まっていくことが予想されるとともに、その講座内容にもさらなる質的向上が求められると考えられる。しかしながら、環境整備や人材育成には相応の予算と時間を要するとともに、施設に求められる工夫として「先進的事例に学ぶこと」や「連携」が挙げられる。

高齢者や ICT の活用に慣れていない人は、ICT の活用に関して「自分は年寄りだから」「苦手だから」といったように、実は一定のニーズを有していても「自分には無理」「面倒」「後でやればよい」と考えてしまうことが多いように思われる。生涯学習支援に携わる全ての人が、表出していないニーズ、言わば「潜在的ニーズ」に気づき、高齢者や ICT の活用に慣れていない人への配慮に積極的に取り

組む必要がある。

具体的には、市町村レベルに限らず県レベルや他都道府県も含めた社会教育施設同士の連携による人的・質的向上を目指す施策を進めながら、特に、オンライン事業に先進的に取り組んでいる大学や企業・NPO等と連携し、茨城県内の生涯学習事業におけるオンライン型の取り組みを包括的に推進していくことで、対面型の事業と合わせてこれまで以上に多種多様なニーズに対応した学習機会を提供することが可能となると考えられる。

また、この課題に対応する5つの県生涯学習センターの役割は、各市町村の社会教育施設の取り組みでICTを効果的に活用できるよう、先進事例などの情報提供や社会教育施設間の連携のサポート、人材育成などの支援を行うことであると考えられる。特に、連携システムのブラッシュアップを行い、オンラインの利点を生かしながら充実した生涯学習の場の提供に資することが求められる。

以上のことから、オンライン事業の運営方法などについての情報共有や提供、さらに社会教育施設の連携や支援状況などについて、先進的事例のヒアリング調査を実施した。

2 ヒアリング調査について

(1) ヒアリング調査結果の概要

アンケート調査結果をもとに、5つの県生涯学習センターを通じ、各地域の実情等も鑑みながらヒアリング対象とする社会教育施設を選定した。多くの施設が新型コロナウイルス感染症の影響により会場等の使用制限がかかる中、「リスク回避をしながらもどのように学びを提供するのか」という思いのもと、ICTの活用については「必要に迫られて」という理由で導入した傾向があったのは、アンケート調査の結果と同様であった。

一方で、各施設では、ICTの導入時と比較して、徐々によりよい学びの提供方法が明らかになってきた傾向が、ヒアリング調査で明らかになった。これは、ICTの導入について施設では当初から高い理想をもっていただけでなく、あくまで可能な範囲内での取り組みから開始しており、その後徐々に事業等のアイデアが膨らみ、職員の意識の向上とともにICTの活用が進んだことが要因であると推察される。

ア 受講者、講師に係る利点

受講者が感染のリスクを負うことなく学ぶ機会を得られることだけでなく、遠方から招聘する講師も感染を気にすることなく講座を行うことができた。さらに、講師の交通費等を予算化する必要がなく、講座目的・内容に相応しい講師を全国から招聘できる機会を得ることにもつながった。

また、例えば、小さい子供がいて誰かに預けることができないなど家庭の事情により参加が難しい学習者に対しても、場所を選ぶことなく学びの機会を提供できる

ようになった。さらに、学ぶ側も学習機会に関してより多くの選択肢を得られるようになった。

イ 講座日時等設定条件に係る利点

新型コロナウイルス感染症の拡大状況が落ち着いた場合に対面型での提供を予定していた講座について、感染症の再拡大で行動制限等がかかったとしても、計画段階からオンライン型に切り替える策を想定しておいたことで、講座日時を変更することなく予定どおりに開催できたというメリットもあった。また、対面型であればマスクをしておきの受講となり表情が伝わりにくい点があるが、オンライン型ではそのような点を気にする事なく講師も講座を進めるといったメリットもあった。最近では、オンライン上でのグループワークのツールも活用することで、講師と参加者、参加者同士も表情を読み取っての対面型に近い講座内容を実現することができている。また、オンデマンド型の講座では受講者が都合の良い時間に受講できることも、ICTを活用した講座の大きな利点である。

ウ 現代的課題への対応に係る利点

昨今、行政サービスのオンライン化等様々なサービスに ICT が活用される中、「デジタルディバイド」という現象が問題となってきた。地域格差・学歴・収入・年齢等による情報格差のことであるが、特に社会教育施設の利用頻度が高い高齢者等に多い傾向がある。その高齢者にとって身近な存在である社会教育施設が利用者である高齢者等に対し、ICT の使い方等のデジタルスキルに係る相談に対応したり、悪質サイトへの対処について等デジタルリテラシーに係る相談に対応したりする機会も増えた。そのことにより、社会教育施設の存在が現代的課題の一つであるデジタルディバイドの解消の一助となったとともに、そのような取り組みを講座の企画に反映させる等に結び付いた例もあった。

(2) ヒアリング調査からみえた課題

ICT を活用しての学びの機会の提供について、主に活用の開始段階で各施設において共通した課題としては以下の5つが挙げられる。

ア 提供する環境に係る事項

オンラインで配信するには、カメラで撮影している内容を伝えることが必要であるが、配信機能を有するカメラが整備されていなかったり、配信ツールをインストールできる PC がなかったり等の問題があった。また PC があっても、セキュリティの関係上ソフトウェア（アプリ）のインストールに制限があるなどの問題も浮上してきた。ここ数年は、スマートフォンやタブレット等、オンライン配信の機器環境を一つの機器でまかなえるものもあるが、活用の開始段階においてはそのような機器を施設で有しているかとなるとまだ不十分であった。当初は個人の機器を使用していた施設もあった。また、オンデマンド形式での提供の際には、動画編集

ソフト（アプリ）についてもインストールされていなかったり、使用に制約があったり等の問題も挙げられた。

イ 通信回線に係る事項

Wi-Fi 環境等の通信環境が未整備の施設にとっては、ICT を活用してオンライン型の学習機会の提供を物理的に行うことができなかつた。ヒアリングの最中にも回線を増強する工事を行っていた施設がある等、現時点でも環境整備が十分ではないという施設もあった。また、施設によっては行政主導によるフリーWi-Fi を利用できる環境があるが、オンライン配信の際に回線の状況次第では映像・音声途切れることがあり、有線回線の利用が望ましい。しかし、有線回線の利用については、施設毎に主管課のセキュリティ対策がなされており、職員専用の事務 PC のみ接続可能で講座配信用 PC は繋ぐことができなかつたり、講師の持込 PC が使用できなかつたり等の問題がある。今後は、オンライン配信だけでなく、オンデマンド型の学習機会の充実も検討の余地があると考えられる。

ウ 著作権に係る事項

音楽に関するオンライン講座を行った施設では、対面型とは異なる権利上の問題があると想定し、日本音楽著作権協会（JASRAC）等の関係機関に相談した内容があった。このように万が一に備えての想定ができるかどうかということも課題である。もし、このような課題を想定せずに著作権上の違法行為に該当してしまった際の問題点は周知の事実であるが、このような課題を想定することができること自体がかなりハードルが高いことだと考えられる。例えば、授業目的公衆送信補償金制度を知っている施設数は今回の調査では 11% ほどでしかない。（第 2 章アンケート調査 2 調査結果 (6) 授業目的公衆送信補償金制度について p.13）著作権に関する講座等も増えているものの、各職員が著作権上の問題に敏感に気づけるかが、課題解決において今後重要になると考える。

エ 対応する職員のスキルに係る事項

ICT 活用にあたり、対応できる職員は一定数必要である。例えば、機器や回線等の導入についてある程度の知識をもった職員がいなければ、具体的に何をすればよいのか見当がつかない。

また、ICT の導入自体ができたとしても、機器や回線のトラブルに対応できる技術のある職員がいなければ、安定したオンライン配信を行うことはできない。

講師によっては、機器を操作できるスタッフを同行させる場合もあるが、今回のヒアリング調査では 1 件にとどまっている。また、単に「ICT のトラブル」といってもその範囲は幅広く、PC についてなのかタブレット端末についてなのか、固有のソフトウェアについてなのかアプリについてなのか、インターネット回線についてなのか音声の配線関係なのか、カメラの設定についてなのか等、そのトラブルの原因は多岐に渡る。「ちょっと機械に詳しい職員がいるから」という理由で担当とな

っていても、具体的にどの分野に詳しいのかによって対応できるトラブルの種類が異なる。また、音楽ホールのように専属の職員がいたとしても、配信する場所が異なれば対応方法も異なる。今回ヒアリングを行った各施設においても、人事異動があったり、現在オンライン・オンデマンドで使用している技術の更新があったりすれば、それに対応できるマンパワーの存在が課題となってくることが予想される。

オ 講座受講者に係る事項

オンラインでの学習を希望する人の中には、PC 等の操作に慣れておらず、受講自体を断念する人も少なくない。各施設やセンターのヒアリングの際にも、オンライン講座実施前にテスト配信を行って事前に確認をしているところもあったが、「Zoom の講座を実施する際に、事前に Zoom の使い方講座を実施しているが、家に帰ると使い方が分からなくなり来館される。」「PC や Wi-Fi のつなぎ方について、操作に関する相談があった。」等の状況も見られる。そして、今後の展望として、ICT を活用した講座の受講に関する内容も含め、デジタルディバイドの解消に資するアイデアも盛り込まれていた。更には、受講者だけではなく講座を提供する講師向けにも研修の機会があればとの希望も見られた。実際に、Zoom の操作に関する研修等を実施した際にゲストではなくホストとしての操作内容を盛り込んだ講座には、自身のスキルアップのために講師が受講する例もみられた。

以上のように、各施設とも県内では先陣を切って ICT を活用しているが、開始段階ではハード面、ソフト面、そしてスキルに係る事項等様々な障壁があったことがうかがえた。しかし、オンライン事業の実施等を進めていく中で少しずつこれらの課題が解決に向かってきたものと思われる。

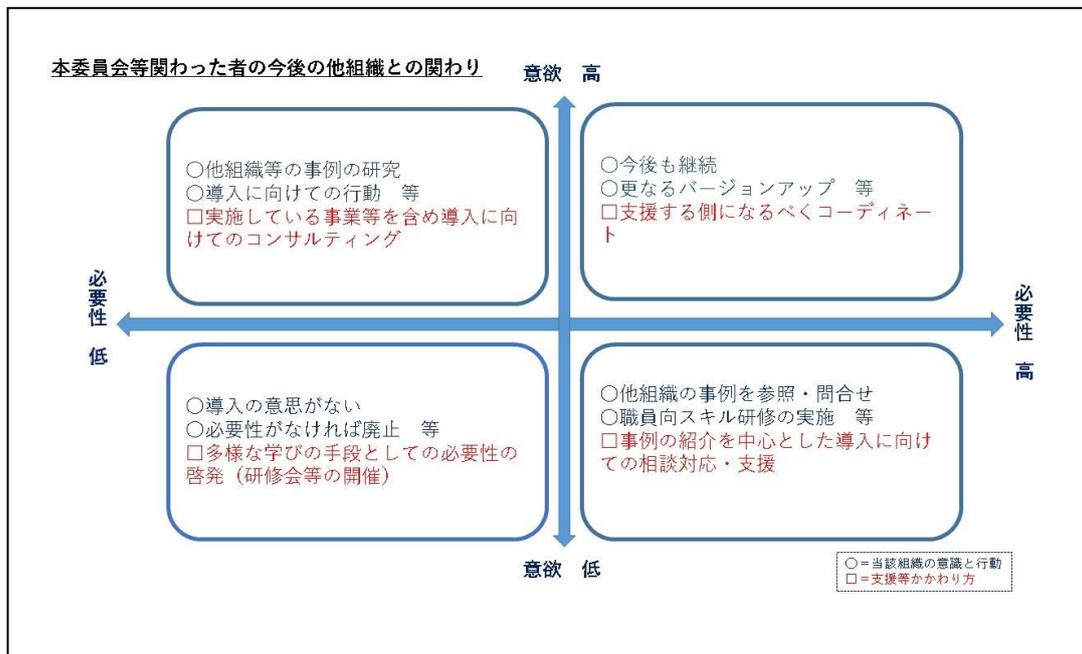
3 総括

ICT 技術の進歩のスピードは速く、アンケート調査からは約1年、ヒアリング調査からは約半年が経つが、時間が経ったからこそ顕在化してきた事項もあると考えられる。

今回の調査研究によって、ICT を活用した学びの機会を提供する側にとっては、その導入段階での「必要性」に関する認識と「意欲」が重要であることが示唆された。すなわち、自主的な導入と必要に迫られた導入、また能動的な導入と受動的な導入とでは、それ以降のオンライン事業等の継続的な提供状況が大きく異なる可能性がある。

これらの要素をマトリックス表に整理したものを、図「本委員会等関わった者の今後の他組織との関わり」に示した。以下では、図で提示した各パターンについて、本調査を生かしての支援等のかかわり方も示してある。

まず、多くの施設は新型コロナウイルス感染症拡大に伴って、オンライン事業を展開せざるを得ない状況で実施したと考えられることから、ICT の活用については「必要性＝高く、意欲＝低」のパターンが多くであったと考えられる。この場合、他施設での事例を多く提供することで、今できることから実践していくことに結び付くと考えられる。



次に、現時点で新型コロナウイルス感染症の対策についての規制が緩和され、対面型でも十分に実施可能となったり、予算の関係上现阶段での必要の判断がなかったりするという「必要性＝低、意欲＝高」のパターンについてである。こちらも、现阶段で実施可能な事柄のコンサルタントをしていくとともに、「必要性＝高、意欲＝高」のパターンの施設を紹介することで、再びオンラインの必要性が増した際に、具体的な対応策を実践できると考えられる。

また「必要性＝高、意欲＝高」のパターンの施設にとっても、事業を更にブラッシュアップする機会となると考える。一方「必要性＝低、意欲＝低」のパターンの施設にとっては、ICT 活用の意義についても含めた研修の機会等を設け、新たな学習ツールとしてのオンラインの有用性を認識させていく必要があると考える。健康面で不安のある方や遠方であるために参加できない方、時間的制約があり参加できない方等にも学びを提供することができる方法の1つとして啓発することが必要であると考えられる。

今回のヒアリング調査から、先駆的な事例のある施設においてさえも、設備の充実度や職員のスキルには様々な違いがあったため、県内各市町村の社会教育施設も加えると、そのレベルはより多様であることが想定される。したがって、各施設の状況に応じた支援が重要であるといえる。例えば、設備の整備状況が不十分で、職員のスキルにも不安がある施設では、スマートデバイスに係る講座等を企画・実施し、関連する講師とつながるきっかけとしたり、関心のある受講者から意見を集めながらその後の講座を企画したり等、施設が無理のない範囲で取り組んでいくことが有効であると考えられる。

設備や職員のレベルに応じた実施内容等の例	
設備や職員のレベル	実施内容等
設備は十分にあり職員のスキルも高い。	現在のコンテンツの継続と新たな企画への挑戦等（オンラインでの受講生のワークショップ等。）
設備は十分だが職員のスキルに不安がある。	提供できる内容を精査した上での、オンライン配信への挑戦等
設備が不足しており職員のスキルにも不安がある。	配信機器の使用方法に関する講座等デジタルディバイド解消に向けての企画への挑戦等

技術の進歩によって様々なサービスの ICT 化が今後ますます進むのは必至である。教育基本法第3条では生涯学習の理念として、「国民一人一人が、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会の実現が図られなければならない。」と謳われている。多様な学びの機会を提供するための現実的な手段としての ICT 活用について、必要性の有無に関わらず積極的に導入を図るべきと考えられる。

【1 調査用紙】

新しい生活様式に対応した新たな生涯学習のスタイルの確立
～茨城県内社会教育施設におけるICTの整備・活用状況について～のアンケート

茨城県水戸生涯学習センターでは、2021年11月から12月にかけて、茨城県内の社会教育施設等を対象に「ICTの整備活用状況と今後の展望についての調査」を実施しました。

その結果、新型コロナウイルスがまん延している今だからこそ、現時点での再調査の必要性が高いと判断し、追加調査を実施する事にしました。今回は、調査の信頼性・公平性を鑑み、無作為抽出法での調査とし、前回御回答いただいた施設には、御負担をおかけしますが、改めて御協力をお願いします。本調査から、今後の社会教育施設の運営等に参考となる有意義な調査報告を行いたいと考えておりますので、是非、御意見をお聞かせください。

御回答いただいた内容は、本調査の目的以外に使用いたしません。また、この調査の結果は、茨城県水戸生涯学習センターのホームページに掲載させていただきます。 ※回答期限:2022年3月18日

※すべて2021年度3月現在でお答えください。

※回答についてお問い合わせをする場合がございますので、以下御記入ください。

施設名			
記入者・職・氏名		連絡先電話番号	

【1】貴施設には、以下の設備・備品がありますか。（複数回答可）

- 高速なインターネット回線
- パソコン（Webカメラ・マイク）
- スピーカーマイク（例えばJABRA SPEAK）
- 照明器具（LEDライト、リングライトなど）
- モニター用ディスプレイ（液晶テレビなど）
- 受講者がオンライン講座を利用できる場所・機材
- 利用者がオンライン講座を実施できる場所・ソフトウェア（Zoomなど）

【2】貴施設では、2021年度中にオンライン講座を行いましたか。

- 行った ⇒ 【3】へ
- 行っていない ⇒ 【4】へ

【3】【2】で「行った」と答えた施設にお伺いします。

(1)貴施設では、2021年度中にオンライン講座をいくつ行いましたか。（ ）講座

(2)貴施設で行ったオンライン講座のうち、代表的な講座一つについて教えてください。（記述）

①ジャンル（例：歴史、健康、社会一般等）

②形式

- 同時双方向型（リアルタイムに配信しているコンテンツを講師や受講生同士でのやりとりが可能なもの）
- オンデマンド型（事前に作成、録画等したものをアップロードする形式）
- ストリーム型（リアルタイムに配信しているコンテンツを受講者が見聞きするのみ）

③曜日

- 月曜日 火曜日 水曜日 木曜日 金曜日 土曜日 日曜日

④時間（例：13:00～15:00のようにお答えください）

（ ）

⑤受講者の主な年齢層（例：60代）

（ ）

(3)オンライン講座で、苦勞・失敗した点を教えてください。（記述）

(4)オンライン講座を行って良かった点を教えてください。(記述)

[Redacted area]

(5)これからオンライン講座を始める施設へのアドバイスを教えてください。(記述)

[Redacted area]

【4】【2】で「行っていない」と答えた施設にお伺いします。

今後オンライン講座を行う予定はありますか。

ある ⇒ 【5】へ

ない ⇒ 【6】へ

【5】【4】で「ある」と答えた施設にお伺いします。

どのような講座を実施したいか教えてください。

①ジャンル(例:歴史、健康、社会一般等)

[Redacted area]

②形式(複数回答可)

同時双方向型(リアルタイムに配信しているコンテンツを講師や受講生同士でのやりとりが可能なもの)

オンデマンド型(事前に作成、録画等したものをアップロードする形式)

ストリーム型(リアルタイムに配信しているコンテンツを受講者が見聞きするのみ)

分からない

③曜日(複数回答可)

月曜日 火曜日 水曜日 木曜日 金曜日 土曜日 日曜日

④時間(例:13:00~15:00のようにお答えください)

([Redacted area])

⑤受講して欲しい主な年齢層(例:60代)

([Redacted area])

【6】【4】で「ない」と答えた施設にお伺いします。

なぜ予定していないのか教えてください。(複数回答可)

設備・環境がない

ノウハウがない

人材がない

受講者が望んでいない

その他(記述)

[Redacted area]

【7】「授業目的公衆送信補償金制度」をご存じですか。

知っている

知らない

【2 ヒアリングに際しての事前のアンケート質問内容】

事前のICT環境調査

このアンケートは、県内の先進的な取組をしている施設に行くものです。県の施設のICT環境整備及び関連事業の推進のために活用していただくことを目的としています。

1 ICT活用に必要な設備等の状況について

(1) 端末

ア 職員用の端末の台数はどのくらいありますか？（端末の種別を問いません）

（ア）1人1台以上

（イ）2人で1台くらい

（ウ）3人以上で1台を使っている

イ 利用者用に貸し出す端末はありますか？

⇒「はい」の場合、どんな端末が何台くらいありますか？

--

チェック
チェック
はい
いいえ

ウ 利用者端末をもっと増やしたいと思いませんか？

⇒「はい」の場合、どんな端末をどのくらい増やしたいですか？

--

チェック
はい
いいえ

エ 利用者端末を拡充する取り組みをしていますか？

⇒「はい」の場合、それはどのような取り組みですか？

--

チェック
はい
いいえ

(2) モニターや音響などの設備、機材

ア 大勢の人が同時に見ることのできる大きな画面がありますか？

⇒「はい」の場合、どのくらいの大きさのものが何台ありますか？

(60インチ以下のモニター ____台)

(60インチ以上のモニター ____台)

(スクリーン ____枚)

(それ以外 _____)

チェック
はい
いいえ

イ 講義室や会議室の様子を映すカメラと、web会議で全員の声を集音することが

できるスピーカーマイクや音響システムを準備してありますか？

（ア）はい、しかし全ての講義室や会議室にあるわけではないです

（イ）はい、全部の講義室や会議室に準備されています

（ウ）いいえ

--

チェック

ウ パソコンやタブレット等にはweb会議で使えるカメラが内蔵または外付けされていますか？

- (ア) はい、職員の分があります
- (イ) はい、利用者用には準備されています
- (ウ) いいえ

チェック

2 ICTの活用に関する人材育成および取り組みについて

(1) 活動、活用、取り組みの実態

ア 職員向けのICT研修をしていますか？

⇒ 「はい」の場合、それほどのような研修ですか？

--

チェック
はい
いいえ

イ SNSやブログをつかった情報発信をすることができる職員がいますか？

- (ア) はい (人)
- (イ) いいえ

⇒ 「いいえ」の場合、今後何か取り組む予定がありますか？

--

⇒ 「いいえ」の場合、準備や配信はどうしていますか？

--

チェック

ウ 利用の状況などをデータベース化して保管していますか？

⇒ 「はい」の場合、保管されたデータベースを何か役立っていますか？

--

チェック
はい
いいえ

エ 講座や施設利用のアンケートをインターネット上でとったことはありますか？

チェック
はい
いいえ

オ 会議室などを借りた利用者はweb会議をしていますか？

チェック
はい
いいえ
分からない

カ 地域や利用者の要請に応じて、電話やメールその他の通信手段をつかって、ソフトウェアの操作方法を身につけてもらう取り組みをしていますか？

⇒ 「はい」の場合、それはどんな取り組みですか？

--

チェック
はい
いいえ

キ 施設で開催される講座などのカリキュラムやテキストを、インターネットを通じて閲覧できるように準備していますか？

- (ア) はい、ほとんどできています
- (イ) はい、一部できているものがあります
- (ウ) いいえ、通常は紙の資料だけを配布しています

チェック

ク 利用者がいつでも利用できるオンデマンドコンテンツを作成したことがありますか？

⇒「はい」の場合、それはどのような内容の講座ですか？

--

チェック
はい
いいえ

3 ICTを活用した事業等について

(1) 今までにどのような企画・取り組みをしていますか？（複数回答）

- ア オンライン講座の開催
- イ web会議の活用
- ウ 施設の利用状況などをデータベースにして活用
- エ SNSやHPを利用した情報発信
- オ eラーニングのような自宅で学ぶもの
- カ その他

--

チェック

(2) この取り組みで使った機材について教えてください（複数回答）

- ア パソコン
- イ タブレット
- ウ スマートフォン
- エ webカメラ
- オ ヘッドホンマイク
- カ 大型モニター
- キ 会議用の音響システム
- ク その他

--

チェック

(3) この取り組みをして良かったことは何ですか？（複数回答）

- ア 講座などの参加者が増えた
- イ 施設の利用者が増えた
- エ 職員のICTへの理解が深まった
- オ 利用者のICTへの理解が深まった
- カ 職員の業務負荷が減った
- キ そのほか（自由記載）

--

チェック

(4) この取り組みの問題点や改善したい点は何ですか？（複数回答）

- ア 事前の準備など職員の仕事が増えた
- イ 職員のICTの知識が不足している
- ウ 接続が途中で切れた
- エ 回線速度が遅い
- オ PCなどの処理速度が遅い
- カ 機材が足りない（具体的に足りないもの：
- キ 参加者や利用者が減った
- ク 利用者から参加しにくいとの意見が増えた
- ケ そのほか

チェック

(5) この取り組みで工夫した点は何ですか？

- ア 感染症対策や移動負担を減らす目的でオンラインのみの開催とした
- イ 施設の利用者、イベントの参加者が増えるよう、インターネットやSNSを使って告知や宣伝を行った
- ウ 新たな取り組みのために職員の研修を行った
- エ ICTに詳しい外部の人からアドバイスを受けた
- オ 利用者からのアンケートからその内容を取り入れた
- カ 職員の中にこの取り組みのための委員会やチームを立ち上げた
- キ 利用者向けの事前の講習会などを企画した
- ク インターネット回線やweb会議用の機材など設備の増強を行った
- ケ そのほか

チェック

(6) ICT活用の新しい取り組みについて

- ア 具体的な新しいアイデアがある
- イ 特に具体的なアイデアはないが、意欲はある
- ウ 特にない

⇒アの具体的なアイデアどんな取り組みですか？

チェック

【3 ヒアリング調査項目】

○施設名

1 施設について

(1) 所在地

(2) 連絡先等

ア 電話番号

イ ファックス番号

ウ メールアドレス

(3) 施設概要

ア 施設面積

イ 部屋数等

(4) 沿革

(5) 職員数 名

2 事前の ICT 環境調査

3 ICT の活用等事例

(1) 講座・企画→ヒアリング先から提供された関連資料を参照に質問する

ア 講座名

イ 概要

ウ 企画内容（時間、内容）

日時	内容	講師

エ どのような形態で講座等を行ったか

(ア) 参加人数（施設内○人、施設外からのアクセス○人）

(イ) 施設における使用機材やその設置方法（具体的な器材の種類と数量のほか、それを揃えるためにかかったおよその金額）

(ウ) 講師と参加者とのやりとり

(エ) ほかに気づいたこと（対面の時との比較など）

オ 成果と課題

(ア) 良かったことは何ですか？

(イ) 改善すべきと思う点はどんなことですか？

(2) 講座・企画以外の学習支援

・地域の方が PC などの操作方法や、ICT の活用について相談に来ることはありますか？それはどんな内容でしょうか？

4 今後の展望と施設の課題

- (1) 利用者の方から施設の ICT 環境についてどのような要望が出ていますか？
- (2) 今後拡充していきたい点はどのような点ですか？（設備、人材、講座などのコンテンツのそれぞれの視点から）
- (3) 具体的に今後やってみたいと思う企画はありますか？（ICT に関する事項）

令和3年度・令和4年度調査研究事業

「新しい生活様式に対応した生涯学習スタイルの確立

～茨城県内の社会教育施設における

ICTの整備・活用状況について～」報告書

令和5年3月発行

編集・発行 茨城県水戸生涯学習センター

〒310-0011 茨城県水戸市三の丸1-5-38

茨城県三の丸庁舎3階

TEL 029-228-1313

FAX 029-228-1633

URL <https://www.mito.gakusyu.ibk.ed.jp/>
